

課題番号	奨 07-001
------	----------

注：課題番号を記入してください。

平成 19 年度 学術研究助成金成果物報告書

平成 21 年 4 月 16 日

日 本 大 学 総 長 殿

氏 名 天野 慎也

所属・資格 法学部 助手



下記のとおり提出いたします。

1 種目	奨励研究 / <input checked="" type="radio"/> 一般研究(個人) / 一般研究(共同) / 総合研究			注：該当する種目を○で囲んでください。																												
2 研究課題	日本政治における国会議員の活動																															
3 研究組織 (共同研究・総合研究のみ該当します)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・研究代表者</li> <li>・研究分担者 (役割分担)</li> </ul>																															
4 学会発表等 (要旨集の抜き刷り, 発表原稿のコピー等及び発表したことがわかるものを添付してください。)	<table border="1"> <thead> <tr> <th>発表者名</th> <th>学会名</th> <th>発表テーマ</th> <th>発表年月</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>天野 慎也</td> <td>日本選挙学会</td> <td>小泉内閣メールマガジンの分析</td> <td>2007年 05月</td> </tr> <tr> <td> </td> <td> </td> <td> </td> <td> </td> </tr> <tr> <td> </td> <td> </td> <td> </td> <td> </td> </tr> <tr> <td> </td> <td> </td> <td> </td> <td> </td> </tr> <tr> <td> </td> <td> </td> <td> </td> <td> </td> </tr> <tr> <td> </td> <td> </td> <td> </td> <td> </td> </tr> </tbody> </table>				発表者名	学会名	発表テーマ	発表年月	天野 慎也	日本選挙学会	小泉内閣メールマガジンの分析	2007年 05月																				
発表者名	学会名	発表テーマ	発表年月																													
天野 慎也	日本選挙学会	小泉内閣メールマガジンの分析	2007年 05月																													
5 著書・雑誌論文 (著書・雑誌・抜き刷り等を添付してください。コピーの場合は掲載されたことが客観的にわかるものを添付してください。)	<table border="1"> <thead> <tr> <th>著者・執筆者</th> <th>著書名・雑誌名/論文名</th> <th>巻・号</th> <th>年月</th> <th>出版社・発行所</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>Angelos Giannakopoulos, Konstadinos Maras, Shinya Amano</td> <td>An International Research Project within the Sixth Framework Programme of the European Commission "Crime and Culture" Political Corruption in Germany and Japan: Party Financing and "Deviant Conduct"</td> <td>No.17</td> <td>2008.10</td> <td>University of Konstanz</td> </tr> <tr> <td> </td> <td> </td> <td> </td> <td> </td> <td> </td> </tr> <tr> <td> </td> <td> </td> <td> </td> <td> </td> <td> </td> </tr> <tr> <td> </td> <td> </td> <td> </td> <td> </td> <td> </td> </tr> </tbody> </table>				著者・執筆者	著書名・雑誌名/論文名	巻・号	年月	出版社・発行所	Angelos Giannakopoulos, Konstadinos Maras, Shinya Amano	An International Research Project within the Sixth Framework Programme of the European Commission "Crime and Culture" Political Corruption in Germany and Japan: Party Financing and "Deviant Conduct"	No.17	2008.10	University of Konstanz																		
著者・執筆者	著書名・雑誌名/論文名	巻・号	年月	出版社・発行所																												
Angelos Giannakopoulos, Konstadinos Maras, Shinya Amano	An International Research Project within the Sixth Framework Programme of the European Commission "Crime and Culture" Political Corruption in Germany and Japan: Party Financing and "Deviant Conduct"	No.17	2008.10	University of Konstanz																												

※ホームページ等での公開の  (可)・否) いずれかを○で囲んでください。否の場合は、理由書を添付して下さい。

6 その他の発表 新聞掲載			
発表／掲載者名	新聞名 (朝刊・夕刊)	掲載年月日	
その他 (ビデオ, CD, シナリオ, 写真, 舞台等)			
氏名	提出物	内容	数量
7 その他の成果 (下記のような成果があれば記入してください。)			
(知的財産権の取得)			
(外部資金の獲得)			
(他の研究への発展)			
(その他)			

* 課題番号	奨 07-002
--------	----------

注：課題番号を記入してください。

平成 19 年度 学術研究助成金成果物報告書

平成 21 年 3 月 24 日

日 本 大 学 総 長 殿

氏 名 三平 正明



所属・資格 文理学部・助教

下記のとおり提出いたします。

1 種 目	<input checked="" type="radio"/> 奨励研究 / <input type="radio"/> 一般研究(個人研究) / <input type="radio"/> 一般研究(共同研究) / <input type="radio"/> 総合研究			注：該当する種目を○で囲んでください。																														
2 研究課題	論理語と論理的帰結																																	
3 研究組織 (共同研究・総合研究のみ該当します)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・研究代表者</li> <li>・研究分担者 (役割分担)</li> </ul>																																	
4 学会発表等 (要旨集の抜き刷り、発表原稿のコピー等及び発表したことがわかるものを添付してください)	<table border="1"> <thead> <tr> <th>発表者名</th> <th>学会名</th> <th>発表テーマ</th> <th>発表年月</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>三平 正明</td> <td>「&lt;私&gt;の言語論的存立構造の哲学的研究 夏の東京ワークショップ」(研究代表 上野修大阪大学教授)</td> <td>一人称：指示と自己意識</td> <td>2008 年 9 月</td> </tr> <tr> <td> </td> <td> </td> <td> </td> <td> </td> </tr> <tr> <td> </td> <td> </td> <td> </td> <td> </td> </tr> <tr> <td> </td> <td> </td> <td> </td> <td> </td> </tr> </tbody> </table>				発表者名	学会名	発表テーマ	発表年月	三平 正明	「<私>の言語論的存立構造の哲学的研究 夏の東京ワークショップ」(研究代表 上野修大阪大学教授)	一人称：指示と自己意識	2008 年 9 月																						
発表者名	学会名	発表テーマ	発表年月																															
三平 正明	「<私>の言語論的存立構造の哲学的研究 夏の東京ワークショップ」(研究代表 上野修大阪大学教授)	一人称：指示と自己意識	2008 年 9 月																															
5 著書・雑誌論文 (著書・雑誌・抜き刷り等を添付してください。コピーの場合は掲載されたことが客観的にわかるものを添付してください)	<table border="1"> <thead> <tr> <th>著者・執筆者</th> <th>著書名・雑誌名／論文名</th> <th>巻・号</th> <th>年月</th> <th>出版社・発行所</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>三平 正明</td> <td>『精神科学』／「クリプキのパズル」</td> <td>46 号</td> <td>2008 年 3 月</td> <td>日本大学哲学研究室編</td> </tr> <tr> <td> </td> <td> </td> <td> </td> <td> </td> <td> </td> </tr> <tr> <td> </td> <td> </td> <td> </td> <td> </td> <td> </td> </tr> <tr> <td> </td> <td> </td> <td> </td> <td> </td> <td> </td> </tr> <tr> <td> </td> <td> </td> <td> </td> <td> </td> <td> </td> </tr> </tbody> </table>				著者・執筆者	著書名・雑誌名／論文名	巻・号	年月	出版社・発行所	三平 正明	『精神科学』／「クリプキのパズル」	46 号	2008 年 3 月	日本大学哲学研究室編																				
著者・執筆者	著書名・雑誌名／論文名	巻・号	年月	出版社・発行所																														
三平 正明	『精神科学』／「クリプキのパズル」	46 号	2008 年 3 月	日本大学哲学研究室編																														

※ホームページ等での公開の  可  否 いずれかを○で囲んでください。否の場合は、理由書を添付して下さい。

6 その他の発表 新聞掲載			
発表／掲載者名	新聞名 (朝刊・夕刊)	掲載年月日	
その他 (ビデオ, CD, シナリオ, 写真, 舞台等)			
氏名	提出物	内容	数量

7 その他の成果 (下記のような成果があれば記入してください。)

(知的財産権の取得)

(外部資金の獲得)

(他の研究への発展)

(その他)

注：課題番号を記入してください。

平成 19 年度 学術研究助成金成果物報告書

平成 21 年 3 月 31 日

日 本 大 学 総 長 殿

氏 名 木下 征彦



所属・資格 文理学部・助教

下記のとおり提出いたします。

1 種 目	<input checked="" type="radio"/> 奨励研究 / <input type="radio"/> 一般研究(個人研究) / <input type="radio"/> 一般研究(共同研究) / <input type="radio"/> 総合研究			注: 該当する種目を○で囲んでください。
2 研究課題	NPO 活動とソーシャル・キャピタル創出に関する研究			
3 研究組織 (共同研究・総合研究のみ該当します)	・ 研究代表者  ・ 研究分担者 (役割分担)			
4 学会発表等 (要旨集の抜き刷り、発表原稿のコピー等及び発表したことがわかるものを添付してください。)				
発表者名	学会名	発表テーマ	発表年月	
木下征彦	日本大学社会学会	地域社会におけるソーシャル・キャピタルと社会参加	平成 20 年 7 月 12 日	
5 著書・雑誌論文 (著書・雑誌・抜き刷り等を添付してください。コピーの場合は掲載されたことが客観的にわかるものを添付してください。)				
著者・執筆者	著書名・雑誌名/論文名	巻・号	年月	出版社・発行所

※ホームページ等での公開の(◎・否) いずれかを○で囲んでください。否の場合は、理由書を添付して下さい。

6 その他の発表 新聞掲載			
発表/掲載者名	新聞名 (朝刊・夕刊)	掲載年月日	
その他 (ビデオ, CD, シナリオ, 写真, 舞台等)			
氏名	提出物	内容	数量
7 その他の成果 (下記のような成果があれば記入してください。)			
(知的財産権の取得)			
(外部資金の獲得)			
(他の研究への発展)			
(その他)			

* 課題番号	奨 07-004
--------	----------

注：課題番号を記入してください。

平成 19 年度 学術研究助成金成果物報告書

平成 21 年 3 月 5 日

日 本 大 学 総 長 殿

氏 名 富士原 雅弘



所属・資格 文理学部・助教

下記のとおり提出いたします。

1 種 目	<input checked="" type="radio"/> 奨励研究 / <input type="radio"/> 一般研究(個人研究) / <input type="radio"/> 一般研究(共同研究) / <input type="radio"/> 総合研究			注: 該当する種目を○で囲んでください。
2 研究課題	近代日本女子高等教育の実態史研究—1920年代以降の女性受講者に焦点をあてて—			
3 研究組織 (共同研究・総合研究のみ該当します)	・研究代表者  ・研究分担者 (役割分担)			
4 学会発表等 (要旨集の抜き刷り, 発表原稿のコピー等及び発表したことがわかるものを添付してください。)				
	発表者名	学会名	発表テーマ	発表年月
5 著書・雑誌論文 (著書・雑誌・抜き刷り等を添付してください。コピーの場合は掲載されたことが客観的にわかるものを添付してください。)				
	著者・執筆者	著書名・雑誌名/論文名	巻・号	年月
	富士原 雅弘	日本大学教育制度研究所『教育制度研究紀要』 / 帝国大学と旧日本植民地の大学における女性受け入れ問題	第 39 集	2008 年 3 月
				出版社・発行所
				日本大学教育制度 研究所

※ホームページ等での公開の  (可) /  (否) いずれかを○で囲んでください。否の場合は、理由書を添付して下さい。

6 その他の発表 新聞掲載			
発表／掲載者名	新聞名 (朝刊・夕刊)	掲載年月日	
その他 (ビデオ, CD, シナリオ, 写真, 舞台等)			
氏名	提出物	内容	数量
7 その他の成果 (下記のような成果があれば記入してください。)			
(知的財産権の取得)			
(外部資金の獲得)			
(他の研究への発展)			
(その他)			



注：課題番号を記入してください。

## 平成19年度 学術研究助成金成果物報告書

平成 2 / 年 3 月 24 日

日 本 大 学 総 長 殿

氏 名 日高 千晴



所属・資格 文理学部・助手

下記のとおり提出いたします。

1 種目	<input checked="" type="radio"/> 奨励研究 / <input type="radio"/> 一般研究(個人研究) / <input type="radio"/> 一般研究(共同研究) / <input type="radio"/> 総合研究			注：該当する種目を○で囲んでください。																																
2 研究課題	希土類元素を二重添加したアルカリ土類チオガレート蛍光体の発光特性の研究																																			
3 研究組織 (共同研究・総合研究のみ該当します)	<ul style="list-style-type: none"> <li>研究代表者</li> <li>研究分担者 (役割分担)</li> </ul>																																			
4 学会発表等 (要旨集の抜き刷り、発表原稿のコピー等及び発表したことがわかるものを添付してください。)	<table border="1"> <thead> <tr> <th>発表者名</th> <th>学会名</th> <th>発表テーマ</th> <th>発表年月</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>C.Hidaka, J.Hodotsuka, T.Takizawa</td> <td>The 16th International Conf. on Ternary Multinary Compounds</td> <td>Effect of co-doping of rare earth and transition metal ions on the photoluminescence in <math>ZnGa_2S_4:Mn^{2+}</math></td> <td>2008年9月14日</td> </tr> <tr> <td>C.Hidaka, M.Shiino, T.Takizawa</td> <td>同上</td> <td>Role of rare earth elements as co-activators on both PL and afterglow of <math>CaGa_2S_4:Eu</math></td> <td>2008年9月14日</td> </tr> <tr> <td>T. Obonai, C.Hidaka, T.Takizawa</td> <td>同上</td> <td>Energy transfer from REE to Mn in <math>(Ca,Sr)Ga_2S_4</math> compounds</td> <td>2008年9月14日</td> </tr> <tr> <td>矢木正和、加藤有行、土肥稔、日高千晴、滝沢武男、飯田誠之</td> <td>第69回応用物理学会学術講演会</td> <td>発光励起、光音響、光吸収スペクトルの相互比較による <math>CaGa_2S_4:Eu</math> 単結晶の評価</td> <td>2008年9月2日</td> </tr> <tr> <td>反町裕、内田貴史、田中久仁彦、内木久雄、日高千晴、滝沢武男</td> <td>第69回応用物理学会学術講演会</td> <td>Ce 添加 <math>CaGa_2S_4</math> 結晶のナノ秒分光 III</td> <td>2008年9月2日</td> </tr> <tr> <td>生内俊光、日高千晴、滝沢武男</td> <td>第69回応用物理学会学術講演会</td> <td><math>(Sr,Ca)Ga_2S_4:Mn</math> の赤色発光への希土類元素の増感効果</td> <td>2008年9月2日</td> </tr> <tr> <td>生内俊光、日高千晴、滝沢武男</td> <td>第55回 春季応用物理学関係連合講演会</td> <td><math>(Sr, Ca)Ga_2S_4</math> 化合物中の希土類元素による Mn 赤色発光の増強</td> <td>2008年3月29日</td> </tr> </tbody> </table>				発表者名	学会名	発表テーマ	発表年月	C.Hidaka, J.Hodotsuka, T.Takizawa	The 16th International Conf. on Ternary Multinary Compounds	Effect of co-doping of rare earth and transition metal ions on the photoluminescence in $ZnGa_2S_4:Mn^{2+}$	2008年9月14日	C.Hidaka, M.Shiino, T.Takizawa	同上	Role of rare earth elements as co-activators on both PL and afterglow of $CaGa_2S_4:Eu$	2008年9月14日	T. Obonai, C.Hidaka, T.Takizawa	同上	Energy transfer from REE to Mn in $(Ca,Sr)Ga_2S_4$ compounds	2008年9月14日	矢木正和、加藤有行、土肥稔、日高千晴、滝沢武男、飯田誠之	第69回応用物理学会学術講演会	発光励起、光音響、光吸収スペクトルの相互比較による $CaGa_2S_4:Eu$ 単結晶の評価	2008年9月2日	反町裕、内田貴史、田中久仁彦、内木久雄、日高千晴、滝沢武男	第69回応用物理学会学術講演会	Ce 添加 $CaGa_2S_4$ 結晶のナノ秒分光 III	2008年9月2日	生内俊光、日高千晴、滝沢武男	第69回応用物理学会学術講演会	$(Sr,Ca)Ga_2S_4:Mn$ の赤色発光への希土類元素の増感効果	2008年9月2日	生内俊光、日高千晴、滝沢武男	第55回 春季応用物理学関係連合講演会	$(Sr, Ca)Ga_2S_4$ 化合物中の希土類元素による Mn 赤色発光の増強	2008年3月29日
発表者名	学会名	発表テーマ	発表年月																																	
C.Hidaka, J.Hodotsuka, T.Takizawa	The 16th International Conf. on Ternary Multinary Compounds	Effect of co-doping of rare earth and transition metal ions on the photoluminescence in $ZnGa_2S_4:Mn^{2+}$	2008年9月14日																																	
C.Hidaka, M.Shiino, T.Takizawa	同上	Role of rare earth elements as co-activators on both PL and afterglow of $CaGa_2S_4:Eu$	2008年9月14日																																	
T. Obonai, C.Hidaka, T.Takizawa	同上	Energy transfer from REE to Mn in $(Ca,Sr)Ga_2S_4$ compounds	2008年9月14日																																	
矢木正和、加藤有行、土肥稔、日高千晴、滝沢武男、飯田誠之	第69回応用物理学会学術講演会	発光励起、光音響、光吸収スペクトルの相互比較による $CaGa_2S_4:Eu$ 単結晶の評価	2008年9月2日																																	
反町裕、内田貴史、田中久仁彦、内木久雄、日高千晴、滝沢武男	第69回応用物理学会学術講演会	Ce 添加 $CaGa_2S_4$ 結晶のナノ秒分光 III	2008年9月2日																																	
生内俊光、日高千晴、滝沢武男	第69回応用物理学会学術講演会	$(Sr,Ca)Ga_2S_4:Mn$ の赤色発光への希土類元素の増感効果	2008年9月2日																																	
生内俊光、日高千晴、滝沢武男	第55回 春季応用物理学関係連合講演会	$(Sr, Ca)Ga_2S_4$ 化合物中の希土類元素による Mn 赤色発光の増強	2008年3月29日																																	
5 著書・雑誌論文 (著書・雑誌・抜き刷り等を添付してください。コピーの場合は掲載されたことが客観的にわかるものを添付してください。)	<table border="1"> <thead> <tr> <th>著者・執筆者</th> <th>著書名・雑誌名／論文名</th> <th>巻・号</th> <th>年月</th> <th>出版社・発行所</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>C.Hidaka, K.Hiraguri, T.Takizawa</td> <td>Physica Status Solidi A/ Photoconductivity and thermally stimulated current in <math>CaGa_2S_4</math> single crystals doped with <math>Eu^{2+}</math> and <math>Ce^{3+}</math></td> <td>205 no. 12</td> <td>2008/12</td> <td>WILEY-VCH</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				著者・執筆者	著書名・雑誌名／論文名	巻・号	年月	出版社・発行所	C.Hidaka, K.Hiraguri, T.Takizawa	Physica Status Solidi A/ Photoconductivity and thermally stimulated current in $CaGa_2S_4$ single crystals doped with $Eu^{2+}$ and $Ce^{3+}$	205 no. 12	2008/12	WILEY-VCH																						
著者・執筆者	著書名・雑誌名／論文名	巻・号	年月	出版社・発行所																																
C.Hidaka, K.Hiraguri, T.Takizawa	Physica Status Solidi A/ Photoconductivity and thermally stimulated current in $CaGa_2S_4$ single crystals doped with $Eu^{2+}$ and $Ce^{3+}$	205 no. 12	2008/12	WILEY-VCH																																

※ホームページ等での公開の ( ) 否) いずれかを○で囲んでください。否の場合は、理由書を添付して下さい。

6 その他の発表 新聞掲載			
発表／掲載者名	新聞名 (朝刊・夕刊)	掲載年月日	
その他 (ビデオ, CD, シナリオ, 写真, 舞台等)			
氏名	提出物	内容	数量

7 その他の成果 (下記のような成果があれば記入してください。)

(知的財産権の取得)

(外部資金の獲得)

(他の研究への発展)

(その他)

* 課題番号	奨 07-007
--------	----------

注：課題番号を記入してください。

## 平成19年度 学術研究助成金成果物報告書

平成 21 年 3 月 19 日

日 本 大 学 総 長 殿

氏 名 \_\_\_\_\_ 及川 絵梨 \_\_\_\_\_



所属・資格 \_\_\_\_\_ 文理学部・副手 \_\_\_\_\_

下記のとおり提出いたします。

1 種目	<input checked="" type="radio"/> 奨励研究 / <input type="radio"/> 一般研究(個人研究) / <input type="radio"/> 一般研究(共同研究) / <input type="radio"/> 総合研究	注：該当する種目を○で囲んでください。		
2 研究課題	p型透明導電性酸化物材料の開発とその高温安定性評価			
3 研究組織 (共同研究・総合研究のみ該当します)	・ 研究代表者  ・ 研究分担者 (役割分担)			
4 学会発表等 (要旨集の抜き刷り、発表原稿のコピー等及び発表したことがわかるものを添付してください。)				
発表者名	学会名	発表テーマ	発表年月	
Y. Kumekawa, M. Hirai, Y. Kobayashi, S. Endoh, E. Oikawa, T. Hashimoto	The 4 <sup>th</sup> International Symposium on the New Frontiers of Thermal Study of Materials	Thermodynamic and kinetic stability of p-type wide gap conducting oxides	2008年12月1日	
桑川悠、平井基裕、小林佑樹、遠藤聡、及川絵梨、橋本拓也	第44回熱測定討論会	ワイドギャップp型導電性酸化物の平衡論的および速度論的安定性の評価	2008年10月17日	
平井基裕、遠藤聡、及川絵梨、橋本拓也	第46回セラミックス基礎科学討論会	p型透明導電性酸化物 CuAlO <sub>2</sub> の合成方法および高温安定性	2008年1月10日	
柳川敦実、遠藤聡、及川絵梨、橋本拓也	第46回セラミックス基礎科学討論会	p型透明導電性酸化物 SrCu <sub>2</sub> O <sub>2</sub> の合成方法および高温安定性	2008年1月10日	
及川絵梨、遠藤聡、平井基裕、柳川敦実、小林佑樹、橋本拓也	第43回熱測定討論会	ワイドギャップp型半導体酸化物の合成方法および高温安定性	2007年10月3日	
5 著書・雑誌論文 (著書・雑誌・抜き刷り等を添付してください。コピーの場合は掲載されたことが客観的にわかるものを添付してください。)				
著者・執筆者	著書名・雑誌名／論文名	巻・号	年月	出版社・発行所

※ホームページ等での公開の  (可)  (否) いずれかを○で囲んでください。否の場合は、理由書を添付して下さい。

6 その他の発表 新聞掲載			
発表/掲載者名	新聞名 (朝刊・夕刊)	掲載年月日	
その他 (ビデオ, CD, シナリオ, 写真, 舞台等)			
氏名	提出物	内容	数量
7 その他の成果 (下記のような成果があれば記入してください。)			
(知的財産権の取得)			
なし			
(外部資金の獲得)			
なし			
(他の研究への発展)			
本材料の安定な温度・ガス分圧を明確にできたことを受けて、本材料を低温で発光材料として使用することが検討されることとなった。			
(その他)			
なし			

* 課題番号	奨 07-008
--------	----------

注：課題番号を記入してください。

## 平成19年度 学術研究助成金成果物報告書

平成 21年 4月 2日

日 本 大 学 総 長 殿

氏 名 橋本 英俊



所属・資格 経済学部・助手

下記のとおり提出いたします。

1	種 目 <input checked="" type="radio"/> 奨励研究 / <input type="radio"/> 一般研究(個人研究) / <input type="radio"/> 一般研究(共同研究) / <input type="radio"/> 総合研究	注：該当する種目を○で囲んでください。			
2	研究課題 近年のエマージングマーケットにおける銀行部門の効率性に関する比較分析				
3	研究組織（共同研究・総合研究のみ該当します） ・研究代表者  ・研究分担者（役割分担）				
4	学会発表等（要旨集の抜き刷り、発表原稿のコピー等及び発表したことがわかるものを添付してください。）				
	発表者名	学会名	発表テーマ	発表年月	
5	著書・雑誌論文（著書・雑誌・抜き刷り等を添付してください。コピーの場合は掲載されたことが客観的にわかるものを添付してください。）				
	著者・執筆者	著書名・雑誌名／論文名	巻・号	年月	出版社・発行所
	橋本英俊	『経済集志』/新興市場地域の銀行部門における生産性変化に関する考察	78巻4号	2009年1月	日本大学経済学部

※ホームページ等での公開の  (可) 否) いずれかを○で囲んでください。否の場合は、理由書を添付して下さい。

6 その他の発表 新聞掲載			
発表/掲載者名	新聞名 (朝刊・夕刊)	掲載年月日	
その他 (ビデオ, CD, シナリオ, 写真, 舞台等)			
氏名	提出物	内容	数量
7 その他の成果 (下記のような成果があれば記入してください。)			
(知的財産権の取得)			
(外部資金の獲得)			
(他の研究への発展)			
(その他)			



6 その他の発表 新聞掲載			
発表/掲載者名	新聞名 (朝刊・夕刊)	掲載年月日	
その他 (ビデオ, CD, シナリオ, 写真, 舞台等)			
氏名	提出物	内容	数量
増田 治宏	HDCAMテープ, DVD	『青い魚』(ドラマ 31分)	1
7 その他の成果 (下記のような成果があれば記入してください。)			
(知的財産権の取得)			
(外部資金の獲得)			
(他の研究への発展)			
(その他)			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・第3回逗子湘南ロケーション映画祭 逗子文化プラザにて上映 (平成19年12月8, 9日)</li> <li>・池袋テアトルダイヤ 平成21年3月28日 21:00上映</li> </ul>			



* 課題番号	奨07-010
--------	---------

注：課題番号を記入してください。

## 平成19年度 学術研究助成金成果物報告書

平成 21 年 3 月 6 日

日 本 大 学 総 長 殿

氏 名 山下聖美



所属・資格 文芸学科 専任講師

下記のとおり提出いたします。

1 種目	<input checked="" type="radio"/> 奨励研究 / <input type="radio"/> 一般研究(個人研究) / <input type="radio"/> 一般研究(共同研究) / <input type="radio"/> 総合研究			注：該当する種目を○で囲んでください。																																			
2 研究課題	近現代日本文学における作家をめぐる諸相についての研究																																						
3 研究組織 (共同研究・総合研究のみ該当します)	・研究代表者  ・研究分担者 (役割分担)																																						
4 学会発表等 (要旨集の抜き刷り、発表原稿のコピー等及び発表したことがわかるものを添付してください。)	<table border="1"> <thead> <tr> <th>発表者名</th> <th>学会名</th> <th>発表テーマ</th> <th>発表年月</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> </tbody> </table>				発表者名	学会名	発表テーマ	発表年月																															
発表者名	学会名	発表テーマ	発表年月																																				
5 著書・雑誌論文 (著書・雑誌・抜き刷り等を添付してください。コピーの場合は掲載されたことが客観的にわかるものを添付してください。)	<table border="1"> <thead> <tr> <th>著者・執筆者</th> <th>著書名・雑誌名/論文名</th> <th>巻・号</th> <th>年月</th> <th>出版社・発行所</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>山下聖美</td> <td>「群ようこの世界 (二)」芸術学部紀要</td> <td>47号</td> <td>20年3月</td> <td>日本大学芸術学部</td> </tr> <tr> <td>山下聖美</td> <td>「群ようこの世界 (三)」芸術学部紀要</td> <td>48号</td> <td>20年9月</td> <td>日本大学芸術学部</td> </tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> </tbody> </table>				著者・執筆者	著書名・雑誌名/論文名	巻・号	年月	出版社・発行所	山下聖美	「群ようこの世界 (二)」芸術学部紀要	47号	20年3月	日本大学芸術学部	山下聖美	「群ようこの世界 (三)」芸術学部紀要	48号	20年9月	日本大学芸術学部																				
著者・執筆者	著書名・雑誌名/論文名	巻・号	年月	出版社・発行所																																			
山下聖美	「群ようこの世界 (二)」芸術学部紀要	47号	20年3月	日本大学芸術学部																																			
山下聖美	「群ようこの世界 (三)」芸術学部紀要	48号	20年9月	日本大学芸術学部																																			

※ホームページ等での公開の  (可)・ (否) いずれかを○で囲んでください。否の場合は、理由書を添付して下さい。

6 その他の発表 新聞掲載			
発表／掲載者名	新聞名 (朝刊・夕刊)	掲載年月日	
その他 (ビデオ, CD, シナリオ, 写真, 舞台等)			
氏名	提出物	内容	数量
7 その他の成果 (下記のような成果があれば記入してください。)			
(知的財産権の取得)			
(外部資金の獲得)			
(他の研究への発展)			
(その他)			

* 課題番号	奨 07-011
--------	----------

注：課題番号を記入してください。

## 平成19年度 学術研究助成金成果物報告書

平成 21年 3月 31日

日 本 大 学 総 長 殿

氏 名 \_\_\_\_\_ 石田 純之助



所属・資格 \_\_\_\_\_ 芸術学部 助教

下記のとおり提出いたします。

1 種 目	<input checked="" type="radio"/> 奨励研究 / <input type="radio"/> 一般研究(個人研究) / <input type="radio"/> 一般研究(共同研究) / <input type="radio"/> 総合研究			注：該当する種目を○で囲んでください。																																								
2 研究課題	EV エコランカーのランニングプロトタイプによる設計、開発と研究																																											
3 研究組織 (共同研究・総合研究のみ該当します)	・研究代表者  ・研究分担者 (役割分担)																																											
4 学会発表等 (要旨集の抜き刷り、発表原稿のコピー等及び発表したことがわかるものを添付してください。)	<table border="1"> <thead> <tr> <th>発表者名</th> <th>学会名</th> <th>発表テーマ</th> <th>発表年月</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> </tbody> </table>				発表者名	学会名	発表テーマ	発表年月																																				
発表者名	学会名	発表テーマ	発表年月																																									
5 著書・雑誌論文 (著書・雑誌・抜き刷り等を添付してください。コピーの場合は掲載されたことが客観的にわかるものを添付してください。)	<table border="1"> <thead> <tr> <th>著者・執筆者</th> <th>著書名・雑誌名/論文名</th> <th>巻・号</th> <th>年月</th> <th>出版社・発行所</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>石田純之助</td> <td>日本大学芸術学部紀要&lt;創作篇&gt;/JINRIKI 2007</td> <td>VOL. 33</td> <td>平成21年3月</td> <td>日本大学芸術学部印刷所/有限会社</td> </tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> </tbody> </table>				著者・執筆者	著書名・雑誌名/論文名	巻・号	年月	出版社・発行所	石田純之助	日本大学芸術学部紀要<創作篇>/JINRIKI 2007	VOL. 33	平成21年3月	日本大学芸術学部印刷所/有限会社																														
著者・執筆者	著書名・雑誌名/論文名	巻・号	年月	出版社・発行所																																								
石田純之助	日本大学芸術学部紀要<創作篇>/JINRIKI 2007	VOL. 33	平成21年3月	日本大学芸術学部印刷所/有限会社																																								

※ホームページ等での公開の (可)・否) いずれかを○で囲んでください。否の場合は、理由書を添付して下さい。

6 その他の発表 新聞掲載			
発表/掲載者名	新聞名 (朝刊・夕刊)	掲載年月日	
その他 (ビデオ, CD, シナリオ, 写真, 舞台等)			
氏名	提出物	内容	数量
石田純之助	J. Ishida Special IV 車両仕様書、競技結果表、写真、記録証明書、3面図	設計、制作した電気自動車 (エコランカー) にて「2007 ワールドエコノムーブ in JAA」競技大会出場。 2007年9月1日の予選を通過し、9月2日の本戦ではオープンクラスにて20台中13位であった。 JAA=日本航空学園 (山梨県)	車両仕様書・1部、 競技結果表・1部、 写真 (コピー) ・5枚、 記録証明書 (コピー) 1枚/3面図・1枚
石田純之助	エコ展 2007 ホームページ	エコランカー制作方法のノウハウを活かし、空気抵抗の少ないリカンベントを制作・提案出展	掲載ホームページ 1部
石田純之助	Nu press e-NEWS (日本大学新聞のニュースサイト)	サイエンスアゴラに出展	プリント (コピー) 1枚
7 その他の成果 (下記のような成果があれば記入してください。)			
(知的財産権の取得)			
(外部資金の獲得)			
(他の研究への発展)			
エコランカー制作方法のノウハウを活かし、空気抵抗の少ないリカンベントタイプ (仰向けに寝た体勢で人力のみで走る) の自転車を制作・提案。「JINRIKI-2007」(リカンベントタイプ中距離移動用")			
「プロと卵が発想するエコデザイン展 2007」にて11月7日~11月20日展示 於: 新宿リビングデザインセンター OZONE) 及び、「サイエンスアゴラ 2007」にて11月23日~11月25日展示 於: 科学未来館			
(その他)			

* 課題番号	奨 07-012
--------	----------

注：課題番号を記入してください。

## 平成 19 年度 学術研究助成金成果物報告書

平成 21 年 4 月 20 日

日 本 大 学 総 長 殿

氏 名 \_\_\_\_\_ 吉田 洋明



所属・資格 理工学部・専任講師

下記のとおり提出いたします。

1	種目 <input checked="" type="radio"/> 奨励研究 / <input type="radio"/> 一般研究(個人研究) / <input type="radio"/> 一般研究(共同研究) / <input type="radio"/> 総合研究	注：該当する種目を○で囲んでください。			
2	研究課題 連続状態量とダイナミクスを持つシステムへの強化学習の適用に関する研究				
3	研究組織（共同研究・総合研究のみ該当します） ・研究代表者  ・研究分担者（役割分担）				
4	学会発表等（要旨集の抜き刷り、発表原稿のコピー等及び発表したことがわかるものを添付してください。）				
	発表者名	学会名	発表テーマ	発表年月	
	吉田 洋明	平成 20 年度 日本大学 理工学部 学術講演会	ダイナミクスを持つシステムへの強化 学習の適用に関する一考察	平成 20 年 11 月 29 日	
5	著書・雑誌論文（著書・雑誌・抜き刷り等を添付してください。コピーの場合は掲載されたことが客観的にわかるものを添付してください。）				
	著者・執筆者	著書名・雑誌名／論文名	巻・号	年月	出版社・発行所

※ホームページ等での公開の  可  否 いずれかを○で囲んでください。否の場合は、理由書を添付して下さい。



*課題番号	奨 07-013
-------	----------

注：課題番号を記入してください。

平成19年度 学術研究助成金成果物報告書

平成 21 年 4 月 20 日

日 本 大 学 総 長 殿

氏 名 安部 明雄



所属・資格 理工学部・助教

下記のとおり提出いたします。

1 種目	<input checked="" type="radio"/> 奨励研究 / <input type="radio"/> 一般研究(個人研究) / <input type="radio"/> 一般研究(共同研究) / <input type="radio"/> 総合研究			注：該当する種目を○で囲んでください。																																
2 研究課題	宇宙往還機の自律飛行のための誘導制御理論の開発と有効性の検証																																			
3 研究組織 (共同研究・総合研究のみ該当します)	・研究代表者  ・研究分担者 (役割分担)																																			
4 学会発表等 (要旨集の抜き刷り、発表原稿のコピー等及び発表したことがわかるものを添付してください。)	<table border="1"> <thead> <tr> <th>発表者名</th> <th>学会名</th> <th>発表テーマ</th> <th>発表年月</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>Kenji Uchiyama, Akio Abe, and Yuzo Shimada</td> <td>International Conference on Control, Automation and Systems</td> <td>Automatic Landing System for Spaceplane Based on Model Predictive Control Using State Mapping</td> <td>October, 2007.</td> </tr> <tr> <td>Kenji Uchiyama, Yuzo Shimada, and Akio Abe</td> <td>International Conference on Control, Automation and Systems</td> <td>Adaptive Attitude Control with Model Reduction for Automatic Landing System</td> <td>October, 2007.</td> </tr> <tr> <td>Akio Abe, Yuzo Shimada and Kenji Uchiyama</td> <td>26th International Symposium on Space Technology and Science</td> <td>Adaptive Control for a Re-entry Vehicle Using Exact Linearization</td> <td>June, 2008.</td> </tr> <tr> <td> </td> <td> </td> <td> </td> <td> </td> </tr> <tr> <td> </td> <td> </td> <td> </td> <td> </td> </tr> <tr> <td> </td> <td> </td> <td> </td> <td> </td> </tr> <tr> <td> </td> <td> </td> <td> </td> <td> </td> </tr> </tbody> </table>				発表者名	学会名	発表テーマ	発表年月	Kenji Uchiyama, Akio Abe, and Yuzo Shimada	International Conference on Control, Automation and Systems	Automatic Landing System for Spaceplane Based on Model Predictive Control Using State Mapping	October, 2007.	Kenji Uchiyama, Yuzo Shimada, and Akio Abe	International Conference on Control, Automation and Systems	Adaptive Attitude Control with Model Reduction for Automatic Landing System	October, 2007.	Akio Abe, Yuzo Shimada and Kenji Uchiyama	26th International Symposium on Space Technology and Science	Adaptive Control for a Re-entry Vehicle Using Exact Linearization	June, 2008.																
発表者名	学会名	発表テーマ	発表年月																																	
Kenji Uchiyama, Akio Abe, and Yuzo Shimada	International Conference on Control, Automation and Systems	Automatic Landing System for Spaceplane Based on Model Predictive Control Using State Mapping	October, 2007.																																	
Kenji Uchiyama, Yuzo Shimada, and Akio Abe	International Conference on Control, Automation and Systems	Adaptive Attitude Control with Model Reduction for Automatic Landing System	October, 2007.																																	
Akio Abe, Yuzo Shimada and Kenji Uchiyama	26th International Symposium on Space Technology and Science	Adaptive Control for a Re-entry Vehicle Using Exact Linearization	June, 2008.																																	
5 著書・雑誌論文 (著書・雑誌・抜き刷り等を添付してください。コピーの場合は掲載されたことが客観的にわかるものを添付してください。)	<table border="1"> <thead> <tr> <th>著者・執筆者</th> <th>著書名・雑誌名/論文名</th> <th>巻・号</th> <th>年月</th> <th>出版社・発行所</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">Kenji Uchiyama, Akio Abe, and Yuzo Shimada</td> <td>Special Issue of Nihon University, College of Science and Technology, 2007 Annual Conference Report of RISTNU /</td> <td rowspan="2">pp. 45-48</td> <td rowspan="2">April, 2008</td> <td rowspan="2">日本大学 理工学部 理工学研究所</td> </tr> <tr> <td>New Approach to Automatic Landing Using Stat Mapping</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">Kenji Uchiyama, Yuzo Shimada, and Akio Abe</td> <td>Special Issue of Nihon University, College of Science and Technology, 2007 Annual Conference Report of RISTNU /</td> <td rowspan="2">pp. 49-52</td> <td rowspan="2">April 2008</td> <td rowspan="2">日本大学 理工学部 理工学研究所</td> </tr> <tr> <td>Design of an Adaptive Attitude Control Law with Fewer Estimated Parameters for an Automatic Landing System</td> </tr> <tr> <td> </td> <td> </td> <td> </td> <td> </td> <td> </td> </tr> <tr> <td> </td> <td> </td> <td> </td> <td> </td> <td> </td> </tr> </tbody> </table>				著者・執筆者	著書名・雑誌名/論文名	巻・号	年月	出版社・発行所	Kenji Uchiyama, Akio Abe, and Yuzo Shimada	Special Issue of Nihon University, College of Science and Technology, 2007 Annual Conference Report of RISTNU /	pp. 45-48	April, 2008	日本大学 理工学部 理工学研究所	New Approach to Automatic Landing Using Stat Mapping	Kenji Uchiyama, Yuzo Shimada, and Akio Abe	Special Issue of Nihon University, College of Science and Technology, 2007 Annual Conference Report of RISTNU /	pp. 49-52	April 2008	日本大学 理工学部 理工学研究所	Design of an Adaptive Attitude Control Law with Fewer Estimated Parameters for an Automatic Landing System															
著者・執筆者	著書名・雑誌名/論文名	巻・号	年月	出版社・発行所																																
Kenji Uchiyama, Akio Abe, and Yuzo Shimada	Special Issue of Nihon University, College of Science and Technology, 2007 Annual Conference Report of RISTNU /	pp. 45-48	April, 2008	日本大学 理工学部 理工学研究所																																
	New Approach to Automatic Landing Using Stat Mapping																																			
Kenji Uchiyama, Yuzo Shimada, and Akio Abe	Special Issue of Nihon University, College of Science and Technology, 2007 Annual Conference Report of RISTNU /	pp. 49-52	April 2008	日本大学 理工学部 理工学研究所																																
	Design of an Adaptive Attitude Control Law with Fewer Estimated Parameters for an Automatic Landing System																																			

※ホームページ等での公開の  可  否 いずれかを○で囲んでください。否の場合は、理由書を添付して下さい。





* 課題番号	奨 07-014
--------	----------

注：課題番号を記入してください。

## 平成 19 年度 学術研究助成金成果物報告書

平成 21 年 8 月 18 日

日 本 大 学 総 長 殿

氏 名 門馬英一郎



所属・資格 理工学部・電気工学科 助手

下記のとおり提出いたします。

1 種目	<input checked="" type="radio"/> 奨励研究 / <input type="radio"/> 一般研究(個人研究) / <input type="radio"/> 一般研究(共同研究) / <input type="radio"/> 総合研究	注：該当する種目を○で囲んでください。																																			
2 研究課題	画像情報を用いた地盤調査の実用化への検討－岩種判別と風化度の評価について－																																				
3 研究組織（共同研究・総合研究のみ該当します）	・研究代表者  ・研究分担者（役割分担）																																				
4 学会発表等（要旨集の抜き刷り、発表原稿のコピー等及び発表したことがわかるものを添付してください。）	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 25%;">発表者名</th> <th style="width: 25%;">学会名</th> <th style="width: 25%;">発表テーマ</th> <th style="width: 25%;">発表年月</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> </tbody> </table>		発表者名	学会名	発表テーマ	発表年月																															
発表者名	学会名	発表テーマ	発表年月																																		
5 著書・雑誌論文（著書・雑誌・抜き刷り等を添付してください。コピーの場合は掲載されたことが客観的にわかるものを添付してください。）	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 25%;">著者・執筆者</th> <th style="width: 35%;">著書名・雑誌名／論文名</th> <th style="width: 10%;">巻・号</th> <th style="width: 10%;">年月</th> <th style="width: 15%;">出版社・発行所</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>門馬、石井、小野</td> <td>電気学会論文誌 A／風化の状態に非依存なテクスチャ特徴を用いた岩種の分類</td> <td>Vol. 129, No. 8</td> <td>2009/8</td> <td>電気学会</td> </tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> </tbody> </table>		著者・執筆者	著書名・雑誌名／論文名	巻・号	年月	出版社・発行所	門馬、石井、小野	電気学会論文誌 A／風化の状態に非依存なテクスチャ特徴を用いた岩種の分類	Vol. 129, No. 8	2009/8	電気学会																									
著者・執筆者	著書名・雑誌名／論文名	巻・号	年月	出版社・発行所																																	
門馬、石井、小野	電気学会論文誌 A／風化の状態に非依存なテクスチャ特徴を用いた岩種の分類	Vol. 129, No. 8	2009/8	電気学会																																	

※ホームページ等での公開の（◎・否） いずれかを○で囲んでください。否の場合は、理由書を添付して下さい。




*課題番号	奨 07-015
-------	----------

注：課題番号を記入してください。

## 平成19年度 学術研究助成金成果物報告書

平成 21年 3月 31日

日 本 大 学 総 長 殿

氏 名 望 月 寛 

所属・資格 理工学部・講師

下記のとおり提出いたします。

1 種目	<input checked="" type="radio"/> 奨励研究 / <input type="radio"/> 一般研究(個人研究) / <input type="radio"/> 一般研究(共同研究) / <input type="radio"/> 総合研究			注：該当する種目を○で囲んでください。																																			
2 研究課題	系再構成機能を有する分散制御システムの高信頼化手法																																						
3 研究組織 (共同研究・総合研究のみ該当します)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・研究代表者</li> <li>・研究分担者 (役割分担)</li> </ul>																																						
4 学会発表等 (要旨集の抜き刷り, 発表原稿のコピー等及び発表したことがわかるものを添付してください)	<table border="1"> <thead> <tr> <th>発表者名</th> <th>学会名</th> <th>発表テーマ</th> <th>発表年月</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>望月寛</td> <td>電子情報通信学会</td> <td>分散制御システムへの系再構成機能の適用手法</td> <td>平成19年12月</td> </tr> <tr> <td>望月寛</td> <td>情報処理学会</td> <td>系再構成機能を適用した分散制御システムに関する一検討</td> <td>平成20年3月</td> </tr> <tr> <td>望月寛</td> <td>電子情報通信学会</td> <td>系再構成機能を適用した分散制御システムの設計</td> <td>平成20年7月</td> </tr> <tr> <td>Janis Wojtuszczyk, 望月寛 他</td> <td>電気学会</td> <td>The Concept and Implementation of the PROTEUS System</td> <td>平成20年8月</td> </tr> <tr> <td>安澤卓也, 望月寛 他</td> <td>電子情報通信学会</td> <td>系再構成機能を適用した分散制御システムの実装</td> <td>平成20年12月</td> </tr> <tr> <td> </td> <td> </td> <td> </td> <td> </td> </tr> <tr> <td> </td> <td> </td> <td> </td> <td> </td> </tr> </tbody> </table>				発表者名	学会名	発表テーマ	発表年月	望月寛	電子情報通信学会	分散制御システムへの系再構成機能の適用手法	平成19年12月	望月寛	情報処理学会	系再構成機能を適用した分散制御システムに関する一検討	平成20年3月	望月寛	電子情報通信学会	系再構成機能を適用した分散制御システムの設計	平成20年7月	Janis Wojtuszczyk, 望月寛 他	電気学会	The Concept and Implementation of the PROTEUS System	平成20年8月	安澤卓也, 望月寛 他	電子情報通信学会	系再構成機能を適用した分散制御システムの実装	平成20年12月											
発表者名	学会名	発表テーマ	発表年月																																				
望月寛	電子情報通信学会	分散制御システムへの系再構成機能の適用手法	平成19年12月																																				
望月寛	情報処理学会	系再構成機能を適用した分散制御システムに関する一検討	平成20年3月																																				
望月寛	電子情報通信学会	系再構成機能を適用した分散制御システムの設計	平成20年7月																																				
Janis Wojtuszczyk, 望月寛 他	電気学会	The Concept and Implementation of the PROTEUS System	平成20年8月																																				
安澤卓也, 望月寛 他	電子情報通信学会	系再構成機能を適用した分散制御システムの実装	平成20年12月																																				
5 著書・雑誌論文 (著書・雑誌・抜き刷り等を添付してください。コピーの場合は掲載されたことが客観的にわかるものを添付してください)	<table border="1"> <thead> <tr> <th>著者・執筆者</th> <th>著書名・雑誌名/論文名</th> <th>巻・号</th> <th>年月</th> <th>出版社・発行所</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td> </td> <td> </td> <td> </td> <td> </td> <td> </td> </tr> <tr> <td> </td> <td> </td> <td> </td> <td> </td> <td> </td> </tr> <tr> <td> </td> <td> </td> <td> </td> <td> </td> <td> </td> </tr> <tr> <td> </td> <td> </td> <td> </td> <td> </td> <td> </td> </tr> <tr> <td> </td> <td> </td> <td> </td> <td> </td> <td> </td> </tr> <tr> <td> </td> <td> </td> <td> </td> <td> </td> <td> </td> </tr> </tbody> </table>				著者・執筆者	著書名・雑誌名/論文名	巻・号	年月	出版社・発行所																														
著者・執筆者	著書名・雑誌名/論文名	巻・号	年月	出版社・発行所																																			

※ホームページ等での公開の  (可)・否) いずれかを○で囲んでください。否の場合は、理由書を添付して下さい。

6 その他の発表  
新聞掲載

発表/掲載者名	新聞名 (朝刊・夕刊)	掲載年月日

その他 (ビデオ, CD, シナリオ, 写真, 舞台等)

氏名	提出物	内容	数量

## 7 その他の成果 (下記のような成果があれば記入してください。)

(知的財産権の取得)

(外部資金の獲得)

(他の研究への発展)

平成 21 年度日本大学学術研究助成金 獲得

一般研究 (個人研究) 課題番号: 個 09-071

課題: 系再構成機能を実現するインターフェースボードの開発

(その他)

* 課題番号	奨 07-016
--------	----------

注：課題番号を記入してください。

## 平成 19 年度 学術研究助成金成果物報告書

平成 21 年 4 月 20 日

日 本 大 学 総 長 殿

氏 名 松 田 弘 幸



所属・資格 理工学部・専任講師

下記のとおり提出いたします。

1 種目	<input checked="" type="radio"/> 奨励研究 / <input type="radio"/> 一般研究(個人研究) / <input type="radio"/> 一般研究(共同研究) / <input type="radio"/> 総合研究	注：該当する種目を○で囲んでください。
2 研究課題	環境負荷低減物質としてのイオン液体を利用した成分分離に関する基礎研究	
3 研究組織 (共同研究・総合研究のみ該当します)	・研究代表者  ・研究分担者 (役割分担)	
4 学会発表等 (要旨集の抜き刷り、発表原稿のコピー等及び発表したことがわかるものを添付してください。)		
発表者名	学会名	発表テーマ
Hiroyuki Matsuda	12th Asia Pacific Confederation of Chemical Engineers (APCChE 2008)	Liquid-Liquid Equilibria of Two Ionic Liquids [BMIM][PF <sub>6</sub> ] and [HMIM][PF <sub>6</sub> ] + 1-Butanol Systems
松田弘幸	化学工学会 第40回秋季大会	白濁点を用いた2成分系液液平衡データからの活量係数式パラメータの決定
Hiroyuki Matsuda	8th International Conference on Separation Science and Technology (ICSST08)	Determination and Correlation of Liquid-Liquid Equilibria in Mixtures of the Ionic Liquids [BMIM][PF <sub>6</sub> ] or [HMIM][PF <sub>6</sub> ] + 1-Butanol Systems
5 著書・雑誌論文 (著書・雑誌・抜き刷り等を添付してください。コピーの場合は掲載されたことが客観的にわかるものを添付してください。)		
著者・執筆者	著書名・雑誌名/論文名	巻・号
Hiroyuki Matsuda	Hiroyuki Matsuda, Megumi Hosaka, Yusuke Yamanaka, Kiyofumi Kurihara, Katsumi Tochigi, and Kenji Ochi, Proceedings of 12th Asia Pacific Confederation of Chemical Engineers (APCChE 2008), Liquid-Liquid Equilibria of Two Ionic Liquids [BMIM][PF <sub>6</sub> ] and [HMIM][PF <sub>6</sub> ] + 1-Butanol Systems	2008年8月
Hiroyuki Matsuda	Hiroyuki Matsuda, Megumi Hosaka, Yusuke Yamanaka, Nao Shoji, Kiyofumi Kurihara, Katsumi Tochigi, and Kenji Ochi, Proceedings of 8th International Conference on Separation Science and Technology (ICSST08), Determination and Correlation of Liquid-Liquid Equilibria in Mixtures of the Ionic Liquids [BMIM][PF <sub>6</sub> ] or [HMIM][PF <sub>6</sub> ] + 1-Butanol Systems	2008年10月

※ホームページ等での公開の  (可)  (否) いずれかを○で囲んでください。否の場合は、理由書を添付して下さい。

6 その他の発表  
新聞掲載

発表/掲載者名	新聞名 (朝刊・夕刊)	掲載年月日

その他 (ビデオ, CD, シナリオ, 写真, 舞台等)

氏名	提出物	内容	数量

## 7 その他の成果 (下記のような成果があれば記入してください。)

(知的財産権の取得)

(外部資金の獲得)

(他の研究への発展)

(その他)

* 課題番号	奨07-017
--------	---------

注：課題番号を記入してください。

## 平成19年度 学術研究助成金成果物報告書

平成 21年 2月 26日

日 本 大 学 総 長 殿

氏 名 渡辺 忠孝



所属・資格 理工学部・専任講師

下記のとおり提出いたします。

1 種目	<input checked="" type="radio"/> 奨励研究 / <input type="radio"/> 一般研究(個人研究) / <input type="radio"/> 一般研究(共同研究) / <input type="radio"/> 総合研究			注：該当する種目を○で囲んでください。																																								
2 研究課題	超音波を用いた磁性が共存/競合するエキゾチック超伝導体の研究																																											
3 研究組織 (共同研究・総合研究のみ該当します)	・研究代表者  ・研究分担者 (役割分担)																																											
4 学会発表等 (要旨集の抜き刷り、発表原稿のコピー等及び発表したことがわかるものを添付してください。)	<table border="1"> <thead> <tr> <th>発表者名</th> <th>学会名</th> <th>発表テーマ</th> <th>発表年月</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>笹目大樹、増淵俊仁、高瀬浩一、高野良紀、渡辺忠孝</td> <td>日本物理学学会 第63回年次大会</td> <td>Lu<sub>2</sub>Fe<sub>3</sub>Si<sub>5</sub> の非磁性元素置換効果</td> <td>2008年3月</td> </tr> <tr> <td>宍倉正志、増淵俊仁、高瀬浩一、高野良紀、渡辺忠孝</td> <td>日本物理学学会 第63回年次大会</td> <td>Dy(Ni<sub>1-x</sub>Ptx)<sub>2</sub>B<sub>2</sub>C の超伝導特性</td> <td>2008年3月</td> </tr> <tr> <td>前坂敏秀、増淵俊仁、高瀬浩一、高野良紀、渡辺忠孝</td> <td>日本物理学学会 第63回年次大会</td> <td>La<sub>3</sub>M<sub>2</sub>B<sub>2</sub>N<sub>3</sub>-δ (M=Mi, Pd, Pt)の超伝導特性</td> <td>2008年3月</td> </tr> <tr> <td>渡辺忠孝・増淵俊仁・高瀬浩一・高野良紀・他4名</td> <td>科研費・特定領域研究 トピカルミーティング</td> <td>Ge含有スピネル GeCo<sub>2</sub>O<sub>4</sub> の超音波測定</td> <td>2008年1月</td> </tr> <tr> <td> </td> <td> </td> <td> </td> <td> </td> </tr> <tr> <td> </td> <td> </td> <td> </td> <td> </td> </tr> <tr> <td> </td> <td> </td> <td> </td> <td> </td> </tr> </tbody> </table>				発表者名	学会名	発表テーマ	発表年月	笹目大樹、増淵俊仁、高瀬浩一、高野良紀、渡辺忠孝	日本物理学学会 第63回年次大会	Lu <sub>2</sub> Fe <sub>3</sub> Si <sub>5</sub> の非磁性元素置換効果	2008年3月	宍倉正志、増淵俊仁、高瀬浩一、高野良紀、渡辺忠孝	日本物理学学会 第63回年次大会	Dy(Ni <sub>1-x</sub> Ptx) <sub>2</sub> B <sub>2</sub> C の超伝導特性	2008年3月	前坂敏秀、増淵俊仁、高瀬浩一、高野良紀、渡辺忠孝	日本物理学学会 第63回年次大会	La <sub>3</sub> M <sub>2</sub> B <sub>2</sub> N <sub>3</sub> -δ (M=Mi, Pd, Pt)の超伝導特性	2008年3月	渡辺忠孝・増淵俊仁・高瀬浩一・高野良紀・他4名	科研費・特定領域研究 トピカルミーティング	Ge含有スピネル GeCo <sub>2</sub> O <sub>4</sub> の超音波測定	2008年1月																				
発表者名	学会名	発表テーマ	発表年月																																									
笹目大樹、増淵俊仁、高瀬浩一、高野良紀、渡辺忠孝	日本物理学学会 第63回年次大会	Lu <sub>2</sub> Fe <sub>3</sub> Si <sub>5</sub> の非磁性元素置換効果	2008年3月																																									
宍倉正志、増淵俊仁、高瀬浩一、高野良紀、渡辺忠孝	日本物理学学会 第63回年次大会	Dy(Ni <sub>1-x</sub> Ptx) <sub>2</sub> B <sub>2</sub> C の超伝導特性	2008年3月																																									
前坂敏秀、増淵俊仁、高瀬浩一、高野良紀、渡辺忠孝	日本物理学学会 第63回年次大会	La <sub>3</sub> M <sub>2</sub> B <sub>2</sub> N <sub>3</sub> -δ (M=Mi, Pd, Pt)の超伝導特性	2008年3月																																									
渡辺忠孝・増淵俊仁・高瀬浩一・高野良紀・他4名	科研費・特定領域研究 トピカルミーティング	Ge含有スピネル GeCo <sub>2</sub> O <sub>4</sub> の超音波測定	2008年1月																																									
5 著書・雑誌論文 (著書・雑誌・抜き刷り等を添付してください。コピーの場合は掲載されたことが客観的にわかるものを添付してください。)	<table border="1"> <thead> <tr> <th>著者・執筆者</th> <th>著書名・雑誌名/論文名</th> <th>巻・号</th> <th>年月</th> <th>出版社・発行所</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>T. Baba, T. Watanabe 他16名</td> <td>Physical Review Letters/ Bulk Electronic Structure of the Antiferromagnetic Superconducting Phase in ErNi<sub>2</sub>B<sub>2</sub>C</td> <td>100</td> <td>2008年1月</td> <td>American Physical Society</td> </tr> <tr> <td>Y. Takano, T. Watanabe 他4名</td> <td>Journal of Alloys and Compounds/ Electrical and Magnetic Properties of LnOZnPn (Ln=Rare Earth, Pn=P, As, Sb)</td> <td>451</td> <td>2008年2月</td> <td>Elsevier</td> </tr> <tr> <td>M. Aoiike, T. Watanabe 他6名</td> <td>Journal of Alloys and Compounds/ Photoluminescence and Magnetic Properties of CdPS<sub>3</sub> Intercalated with Rare Earth Ions</td> <td>451</td> <td>2008年2月</td> <td>Elsevier</td> </tr> <tr> <td> </td> <td> </td> <td> </td> <td> </td> <td> </td> </tr> <tr> <td> </td> <td> </td> <td> </td> <td> </td> <td> </td> </tr> <tr> <td> </td> <td> </td> <td> </td> <td> </td> <td> </td> </tr> <tr> <td> </td> <td> </td> <td> </td> <td> </td> <td> </td> </tr> </tbody> </table>				著者・執筆者	著書名・雑誌名/論文名	巻・号	年月	出版社・発行所	T. Baba, T. Watanabe 他16名	Physical Review Letters/ Bulk Electronic Structure of the Antiferromagnetic Superconducting Phase in ErNi <sub>2</sub> B <sub>2</sub> C	100	2008年1月	American Physical Society	Y. Takano, T. Watanabe 他4名	Journal of Alloys and Compounds/ Electrical and Magnetic Properties of LnOZnPn (Ln=Rare Earth, Pn=P, As, Sb)	451	2008年2月	Elsevier	M. Aoiike, T. Watanabe 他6名	Journal of Alloys and Compounds/ Photoluminescence and Magnetic Properties of CdPS <sub>3</sub> Intercalated with Rare Earth Ions	451	2008年2月	Elsevier																				
著者・執筆者	著書名・雑誌名/論文名	巻・号	年月	出版社・発行所																																								
T. Baba, T. Watanabe 他16名	Physical Review Letters/ Bulk Electronic Structure of the Antiferromagnetic Superconducting Phase in ErNi <sub>2</sub> B <sub>2</sub> C	100	2008年1月	American Physical Society																																								
Y. Takano, T. Watanabe 他4名	Journal of Alloys and Compounds/ Electrical and Magnetic Properties of LnOZnPn (Ln=Rare Earth, Pn=P, As, Sb)	451	2008年2月	Elsevier																																								
M. Aoiike, T. Watanabe 他6名	Journal of Alloys and Compounds/ Photoluminescence and Magnetic Properties of CdPS <sub>3</sub> Intercalated with Rare Earth Ions	451	2008年2月	Elsevier																																								

※ホームページ等での公開の  否  いずれかを○で囲んでください。否の場合は、理由書を添付して下さい。





* 課題番号	奨 07-018
--------	----------

注：課題番号を記入してください。

平成 19 年度 学術研究助成金成果物報告書

平成 21 年 3 月 3 日

日 本 大 学 総 長 殿

氏 名 酒 句 教 明



所属・資格 短期大学部（船橋校舎）・専任講師

下記のとおり提出いたします。

1 種 目	<input checked="" type="radio"/> 奨励研究 / <input type="radio"/> 一般研究(個人研究) / <input type="radio"/> 一般研究(共同研究) / <input type="radio"/> 総合研究			注：該当する種目を○で囲んでください。																																
2 研究課題	産業廃棄物を利用し複数の機能を有した地盤改良体の開発																																			
3 研究組織（共同研究・総合研究のみ該当します）	・研究代表者  ・研究分担者（役割分担）																																			
4 学会発表等（要旨集の抜き刷り、発表原稿のコピー等及び発表したことがわかるものを添付してください。）	<table border="1"> <thead> <tr> <th>発表者名</th> <th>学会名</th> <th>発表テーマ</th> <th>発表年月</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> </tbody> </table>				発表者名	学会名	発表テーマ	発表年月																												
発表者名	学会名	発表テーマ	発表年月																																	
5 著書・雑誌論文（著書・雑誌・抜き刷り等を添付してください。コピーの場合は掲載されたことが客観的にわかるものを添付してください。）	<table border="1"> <thead> <tr> <th>著者・執筆者</th> <th>著書名・雑誌名／論文名</th> <th>巻・号</th> <th>年月</th> <th>出版社・発行所</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>酒句 教明 川村 政史 下村 幸男</td> <td>日本建築学会技術報告集／産業廃棄物および建設副産物を用いた高減衰性能を有する地盤材料の開発</td> <td>第 14 巻, 第 27 号</td> <td>平成 20 年 6 月</td> <td>日本建築学会</td> </tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> </tbody> </table>				著者・執筆者	著書名・雑誌名／論文名	巻・号	年月	出版社・発行所	酒句 教明 川村 政史 下村 幸男	日本建築学会技術報告集／産業廃棄物および建設副産物を用いた高減衰性能を有する地盤材料の開発	第 14 巻, 第 27 号	平成 20 年 6 月	日本建築学会																						
著者・執筆者	著書名・雑誌名／論文名	巻・号	年月	出版社・発行所																																
酒句 教明 川村 政史 下村 幸男	日本建築学会技術報告集／産業廃棄物および建設副産物を用いた高減衰性能を有する地盤材料の開発	第 14 巻, 第 27 号	平成 20 年 6 月	日本建築学会																																

※ホームページ等での公開の  可・  否） いずれかを○で囲んでください。否の場合は、理由書を添付して下さい。

6 その他の発表 新聞掲載		
発表/掲載者名	新聞名 (朝刊・夕刊)	掲載年月日

その他 (ビデオ, CD, シナリオ, 写真, 舞台等)

氏名	提出物	内容	数量

7 その他の成果 (下記のような成果があれば記入してください。)

(知的財産権の取得)

(外部資金の獲得)

(他の研究への発展)

(その他)

* 課題番号	奨 07-019
--------	----------

注：課題番号を記入してください。

平成 19 年度 学術研究助成金成果物報告書

平成 20 年 4 月 20 日

日 本 大 学 総 長 殿

氏 名 洪 秀 徴



所属・資格 理工学部・助手

下記のとおり提出いたします。

1 種 目	奨励研究 <input checked="" type="radio"/> 一般研究(個人研究) / 一般研究(共同研究) / 総合研究			注：該当する種目を○で囲んでください。																																
2 研究課題	X線天文衛星による突発天体の観測的研究																																			
3 研究組織 (共同研究・総合研究のみ該当します)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・研究代表者</li> <li>・研究分担者 (役割分担)</li> </ul>																																			
4 学会発表等 (要旨集の抜き刷り、発表原稿のコピー等及び発表したことがわかるものを添付してください。)	<table border="1"> <thead> <tr> <th>発表者名</th> <th>学会名</th> <th>発表テーマ</th> <th>発表年月</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>洪秀徴(35人中14番目)</td> <td>日本物理学会</td> <td>「すざく」衛星搭載硬 X線検出器広帯域全天モニタ部(HXD-WAM)の現状(V)</td> <td>2009年3月</td> </tr> <tr> <td>洪秀徴(34人中26番目)</td> <td>日本天文学会</td> <td>「すざく」衛星搭載硬 X線検出器広帯域全天モニタ部(HXD-WAM)の現状(VII)</td> <td>2009年3月</td> </tr> <tr> <td>洪秀徴(34人中26番目)</td> <td>日本天文学会</td> <td>「すざく」衛星搭載硬 X線検出器広帯域全天モニタ部(HXD-WAM)の現状(VI)</td> <td>2008年9月</td> </tr> <tr> <td>洪秀徴(31人中21番目)</td> <td>日本天文学会</td> <td>「すざく」衛星搭載硬 X線検出器広帯域全天モニタ部(HXD-WAM)の現状(V)</td> <td>2008年3月</td> </tr> <tr> <td>洪秀徴(32人中13番目)</td> <td>日本物理学会</td> <td>「すざく」衛星搭載硬 X線検出器広帯域全天モニタ部(HXD-WAM)の現状(IV)</td> <td>2008年3月</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				発表者名	学会名	発表テーマ	発表年月	洪秀徴(35人中14番目)	日本物理学会	「すざく」衛星搭載硬 X線検出器広帯域全天モニタ部(HXD-WAM)の現状(V)	2009年3月	洪秀徴(34人中26番目)	日本天文学会	「すざく」衛星搭載硬 X線検出器広帯域全天モニタ部(HXD-WAM)の現状(VII)	2009年3月	洪秀徴(34人中26番目)	日本天文学会	「すざく」衛星搭載硬 X線検出器広帯域全天モニタ部(HXD-WAM)の現状(VI)	2008年9月	洪秀徴(31人中21番目)	日本天文学会	「すざく」衛星搭載硬 X線検出器広帯域全天モニタ部(HXD-WAM)の現状(V)	2008年3月	洪秀徴(32人中13番目)	日本物理学会	「すざく」衛星搭載硬 X線検出器広帯域全天モニタ部(HXD-WAM)の現状(IV)	2008年3月								
発表者名	学会名	発表テーマ	発表年月																																	
洪秀徴(35人中14番目)	日本物理学会	「すざく」衛星搭載硬 X線検出器広帯域全天モニタ部(HXD-WAM)の現状(V)	2009年3月																																	
洪秀徴(34人中26番目)	日本天文学会	「すざく」衛星搭載硬 X線検出器広帯域全天モニタ部(HXD-WAM)の現状(VII)	2009年3月																																	
洪秀徴(34人中26番目)	日本天文学会	「すざく」衛星搭載硬 X線検出器広帯域全天モニタ部(HXD-WAM)の現状(VI)	2008年9月																																	
洪秀徴(31人中21番目)	日本天文学会	「すざく」衛星搭載硬 X線検出器広帯域全天モニタ部(HXD-WAM)の現状(V)	2008年3月																																	
洪秀徴(32人中13番目)	日本物理学会	「すざく」衛星搭載硬 X線検出器広帯域全天モニタ部(HXD-WAM)の現状(IV)	2008年3月																																	
5 著書・雑誌論文 (審査・雑誌・抜き刷り等を添付してください。コピーの場合は掲載されたことが客観的にわかるものを添付してください。)	<table border="1"> <thead> <tr> <th>著者・執筆者</th> <th>著書名・雑誌名/論文名</th> <th>巻・号</th> <th>年月</th> <th>出版社・発行所</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>S, Hong(41人中7番目)</td> <td>Publ. Astron. Soc. Japan / Design and In-Orbit Performance of the Suzaku Wide-Band All-Sky Monitor</td> <td>61</td> <td>01/2009</td> <td>The Astronomical Society of Japan</td> </tr> <tr> <td>S, Hong(20人中7番目)</td> <td>The Astrophysical Journal / Observations of the Prompt Gamma-ray Emission of GRB070125</td> <td>688</td> <td>11/2008</td> <td>The American Astronomical Society</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				著者・執筆者	著書名・雑誌名/論文名	巻・号	年月	出版社・発行所	S, Hong(41人中7番目)	Publ. Astron. Soc. Japan / Design and In-Orbit Performance of the Suzaku Wide-Band All-Sky Monitor	61	01/2009	The Astronomical Society of Japan	S, Hong(20人中7番目)	The Astrophysical Journal / Observations of the Prompt Gamma-ray Emission of GRB070125	688	11/2008	The American Astronomical Society																	
著者・執筆者	著書名・雑誌名/論文名	巻・号	年月	出版社・発行所																																
S, Hong(41人中7番目)	Publ. Astron. Soc. Japan / Design and In-Orbit Performance of the Suzaku Wide-Band All-Sky Monitor	61	01/2009	The Astronomical Society of Japan																																
S, Hong(20人中7番目)	The Astrophysical Journal / Observations of the Prompt Gamma-ray Emission of GRB070125	688	11/2008	The American Astronomical Society																																

※ホームページ等での公開の  可  否 いずれかを○で囲んでください。否の場合は、理由書を添付して下さい。

6 その他の発表 新聞掲載			
発表/掲載者名	新聞名 (朝刊・夕刊)	掲載年月日	
その他 (ビデオ, CD, シナリオ, 写真, 舞台等)			
氏名	提出物	内容	数量
7 その他の成果 (下記のような成果があれば記入してください。)			
(知的財産権の取得)			
(外部資金の獲得)			
(他の研究への発展)			
(その他)			

注：課題番号を記入してください。

## 平成19年度 学術研究助成金成果物報告書

平成 21年 4月 7日

日 本 大 学 総 長 殿

氏 名 田中 遵



所属・資格 生産工学部・専任講師

下記のとおり提出いたします。

1 種 目	<input checked="" type="radio"/> 奨励研究 / <input type="radio"/> 一般研究(個人) / <input type="radio"/> 一般研究(共同) / <input type="radio"/> 総合研究			注:該当する種目を○で囲んでください。
2 研究課題	芸術的要素を公共空間に設置する事業の企画・運営・管理の実態把握に関する研究			
3 研究組織 (共同研究・総合研究のみ該当します)	・研究代表者  ・研究分担者 (役割分担)			
4 学会発表等 (要旨集の抜き刷り, 発表原稿のコピー等及び発表したことがわかるものを添付してください。)				
発表者名	学会名	発表テーマ	発表年月	
荒木晋作, 田中遵, 日高單也	日本大学生産工学部 第41回学術講演会	国際美術展における地域性に関する研究 -横浜トリエンナーレと越後妻有アートトリエンナーレを事例として-	2008年12月6日	
高橋佳祐, 田中遵, 日高單也	日本大学生産工学部 第41回学術講演会	アートが建築物に作用する効果について -大黒屋・脱皮する家・光の館を事例として-	2008年12月6日	
5 著書・雑誌論文 (著書・雑誌・抜き刷り等を添付してください。コピーの場合は掲載されたことが客観的にわかるものを添付してください。)				
著者・執筆者	著書名・雑誌名/論文名	巻・号	年月	出版社・発行所

※ホームページ等での公開の  (可)・ (否) いずれかを○で囲んでください。否の場合は、理由書を添付して下さい。

6 その他の発表 新聞掲載			
発表／掲載者名	新聞名 (朝刊・夕刊)	掲載年月日	
その他 (ビデオ, CD, シナリオ, 写真, 舞台等)			
氏名	提出物	内容	数量
田中遵	環境芸術作品： 作品タイトル「five years」	新制作協会主催 新制作展 スペースデザイン部に会員出展した作品である。(2008年9月17日)	1 作品
7 その他の成果 (下記のような成果があれば記入してください。)			
(知的財産権の取得)			
(外部資金の獲得)			
(他の研究への発展)			
(その他)			

課題番号	奨 07-021
------	----------

注：課題番号を記入してください。

## 平成 19 年度 学術研究助成金成果物報告書

平成 21 年 3 月 14 日

日 本 大 学 総 長 殿

氏 名 小 森 谷 友 絵



所属・資格 生産工学部 ・ 助 手

下記のとおり提出いたします。

1	種 目 <input checked="" type="radio"/> 奨励研究 <input type="radio"/> 一般研究(個人) / <input type="radio"/> 一般研究(共同) / <input type="radio"/> 総合研究	注: 該当する種目を○で囲んでください。
2	研究課題 抗 CRP 抗体のペプシン消化による Latex 試薬の非特異的反応の検討	
3	研究組織 (共同研究・総合研究のみ該当します) ・ 研究代表者  ・ 研究分担者 (役割分担)	
4	学会発表等 (要旨集の抜き刷り, 発表原稿のコピー等及び発表したことがわかるものを添付してください。)	
	発表者名	学会名
	発表テーマ	発表年月
	小森谷 友絵	第 41 回日本大学生産工 学部 学術講演会
	超高感度 CRP 測定試薬の開発とその 臨床的意義	2008 年 12 月
5	著書・雑誌論文 (著書・雑誌・抜き刷り等を添付してください。コピーの場合は掲載されたことが客観的にわかるものを添付してください。)	
	著者・執筆者	著書名・雑誌名 / 論文名
	巻・号	年月
	出版社・発行所	

※ホームページ等での公開の  可  否 いずれかを○で囲んでください。否の場合は、理由書を添付して下さい。

6 その他の発表 新聞掲載			
発表／掲載者名	新聞名 (朝刊・夕刊)	掲載年月日	
その他 (ビデオ, CD, シナリオ, 写真, 舞台等)			
氏名	提出物	内容	数量
7 その他の成果 (下記のような成果があれば記入してください。)			
(知的財産権の取得)			
(外部資金の獲得)			
(他の研究への発展)			
(その他)			



課題番号	奨 07-022
------	----------

注：課題番号を記入してください。

平成19年度 学術研究助成金成果物報告書

平成 20年 4月 8日

日 本 大 学 総 長 殿

氏 名 丸 茂 喜 高  
 所属・資格 生産工学部 ・ 専任講師



下記のとおり提出いたします。

1 種目	<input checked="" type="radio"/> 奨励研究(個人)/一般研究(共同)/総合研究			注：該当する種目を○で囲んでください。																																								
2 研究課題	新しいコンピュータ開発のための二輪車の運動制御に関する研究																																											
3 研究組織 (共同研究・総合研究のみ該当します)	・ 研究代表者  ・ 研究分担者 (役割分担)																																											
4 学会発表等 (要旨集の抜き刷り、発表原稿のコピー等及び発表したことがわかるものを添付してください。)	<table border="1"> <thead> <tr> <th>発表者名</th> <th>学会名</th> <th>発表テーマ</th> <th>発表年月</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>片桐希, 丸茂喜高, 綱島均</td> <td>日本機械学会 2008 年度年次大会</td> <td>ライダー操縦モデルを用いた二輪車の車線維持支援システムに関する研究</td> <td>2008 年 8 月</td> </tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> </tbody> </table>				発表者名	学会名	発表テーマ	発表年月	片桐希, 丸茂喜高, 綱島均	日本機械学会 2008 年度年次大会	ライダー操縦モデルを用いた二輪車の車線維持支援システムに関する研究	2008 年 8 月																																
発表者名	学会名	発表テーマ	発表年月																																									
片桐希, 丸茂喜高, 綱島均	日本機械学会 2008 年度年次大会	ライダー操縦モデルを用いた二輪車の車線維持支援システムに関する研究	2008 年 8 月																																									
5 著書・雑誌論文 (著書・雑誌・抜き刷り等を添付してください。コピーの場合は掲載されたことが客観的にわかるものを添付してください。)	<table border="1"> <thead> <tr> <th>著者・執筆者</th> <th>著書名・雑誌名/論文名</th> <th>巻・号</th> <th>年月</th> <th>出版社・発行所</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> </tbody> </table>				著者・執筆者	著書名・雑誌名/論文名	巻・号	年月	出版社・発行所																																			
著者・執筆者	著書名・雑誌名/論文名	巻・号	年月	出版社・発行所																																								

※ホームページ等での公開の  否) いずれかを○で囲んでください。否の場合は、理由書を添付して下さい。

6 その他の発表 新聞掲載			
発表／掲載者名	新聞名 (朝刊・夕刊)	掲載年月日	
その他 (ビデオ, CD, シナリオ, 写真, 舞台等)			
氏名	提出物	内容	数量
7 その他の成果 (下記のような成果があれば記入してください。)			
(知的財産権の取得)			
(外部資金の獲得)			
(他の研究への発展)			
(その他)			
平成20年度も学内予算で研究を継続し、研究成果を自動車技術会関東支部学術研究講演会で発表を行い、ベスト・ペーパー賞を受賞した。			

* 課題番号	奨07-023
--------	---------

注：課題番号を記入してください。

平成19年度 学術研究助成金成果物報告書

平成 21年 4月 9日

日 本 大 学 総 長 殿

氏 名 子田 康弘



所属・資格 工学部土木工学科・専任講師

下記のとおり提出いたします。

1 種目	<input checked="" type="radio"/> 奨励研究 / <input type="radio"/> 一般研究(個人研究) / <input type="radio"/> 一般研究(共同研究) / <input type="radio"/> 総合研究			注：該当する種目を○で囲んでください。																																													
2 研究課題	連続繊維シートによる U 字補強 RC はりのせん断耐荷性状に関する検討																																																
3 研究組織 (共同研究・総合研究のみ該当します)	・研究代表者  ・研究分担者 (役割分担)																																																
4 学会発表等 (要旨集の抜き刷り、発表原稿のコピー等及び発表したことがわかるものを添付してください。)	<table border="1"> <thead> <tr> <th>発表者名</th> <th>学会名</th> <th>発表テーマ</th> <th>発表年月</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> </tbody> </table>				発表者名	学会名	発表テーマ	発表年月																																									
発表者名	学会名	発表テーマ	発表年月																																														
5 著書・雑誌論文 (著書・雑誌・抜き刷り等を添付してください。コピーの場合は掲載されたことが客観的にわかるものを添付してください。)	<table border="1"> <thead> <tr> <th>著者・執筆者</th> <th>著書名・雑誌名/論文名</th> <th>巻・号</th> <th>年月</th> <th>出版社・発行所</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>子田康弘, 岩城一郎, 中村 晋</td> <td>土木学会論文集 E/RC はりを U 字型補強した連続繊維シートによるせん断補強効果の簡易な評価手法</td> <td>Vol. 62 No. 1</td> <td>2008. 2</td> <td>土木学会</td> </tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> </tbody> </table>				著者・執筆者	著書名・雑誌名/論文名	巻・号	年月	出版社・発行所	子田康弘, 岩城一郎, 中村 晋	土木学会論文集 E/RC はりを U 字型補強した連続繊維シートによるせん断補強効果の簡易な評価手法	Vol. 62 No. 1	2008. 2	土木学会																																			
著者・執筆者	著書名・雑誌名/論文名	巻・号	年月	出版社・発行所																																													
子田康弘, 岩城一郎, 中村 晋	土木学会論文集 E/RC はりを U 字型補強した連続繊維シートによるせん断補強効果の簡易な評価手法	Vol. 62 No. 1	2008. 2	土木学会																																													

※ホームページ等での公開の  可  否) いずれかを○で囲んでください。否の場合は、理由書を添付して下さい。

6 その他の発表 新聞掲載			
発表／掲載者名	新聞名 (朝刊・夕刊)	掲載年月日	
その他 (ビデオ, CD, シナリオ, 写真, 舞台等)			
氏名	提出物	内容	数量
7 その他の成果 (下記のような成果があれば記入してください。)			
(知的財産権の取得)			
(外部資金の獲得)			
(他の研究への発展)			
(その他)			

* 課題番号	奨07-024
--------	---------

注：課題番号を記入してください。

平成19年度 学術研究助成金成果物報告書

平成 21年 5月 15日

日本大学 総長 殿

氏 名 村山 嘉延



所属・資格 電気電子工学科・専任講師

下記のとおり提出いたします。

1 種 目	奨励研究 / 一般研究(個人研究) / 一般研究(共同研究) / 総合研究			注: 該当する種目を○で囲んでください。																									
2 研究課題	卵子品質が初期胚透明帯形状と弾性率の経時変化に及ぼす影響について																												
3 研究組織 (共同研究・総合研究のみ該当します)	<ul style="list-style-type: none"> <li>研究代表者</li> <li>研究分担者 (役割分担)</li> </ul>																												
4 学会発表等 (要旨集の抜き刷り, 発表原稿のコピー等及び発表したことがわかるものを添付してください。)	<table border="1"> <thead> <tr> <th>発表者名</th> <th>学会名</th> <th>発表テーマ</th> <th>発表年月</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>Yoshinobu MURAYAMA, Jinji MIZUNO, Hiroko NAKAMURA, Hirokazu Kamakura, kazuyuki AKAIISHI, Hiroaki INUI and Sadao OMATA</td> <td>American Society for Reproductive Medicine 63rd Annual Meeting</td> <td>Reliable ovum evaluation system by engineering technology, Micro Tactile Sensor (MTS) system for Elective Single embryo Transfer (eSET) on human ART</td> <td>平成19年10月17日</td> </tr> <tr> <td>Yoshonobu Murayama, Jinji Mizuno, Hirokazu Kamakura, Hiroko Nakamura, Kazuyuki Akaishi, Hiroaki Inui and Sadao Omata.</td> <td>41st Annual Meeting of the Society for the Study of Reproduction</td> <td>Mouse Zona Pellucida Mechanically Hardens in the Amount of Cortical Granule exudates dependent manner.</td> <td>平成20年5月28日</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				発表者名	学会名	発表テーマ	発表年月	Yoshinobu MURAYAMA, Jinji MIZUNO, Hiroko NAKAMURA, Hirokazu Kamakura, kazuyuki AKAIISHI, Hiroaki INUI and Sadao OMATA	American Society for Reproductive Medicine 63rd Annual Meeting	Reliable ovum evaluation system by engineering technology, Micro Tactile Sensor (MTS) system for Elective Single embryo Transfer (eSET) on human ART	平成19年10月17日	Yoshonobu Murayama, Jinji Mizuno, Hirokazu Kamakura, Hiroko Nakamura, Kazuyuki Akaishi, Hiroaki Inui and Sadao Omata.	41st Annual Meeting of the Society for the Study of Reproduction	Mouse Zona Pellucida Mechanically Hardens in the Amount of Cortical Granule exudates dependent manner.	平成20年5月28日													
発表者名	学会名	発表テーマ	発表年月																										
Yoshinobu MURAYAMA, Jinji MIZUNO, Hiroko NAKAMURA, Hirokazu Kamakura, kazuyuki AKAIISHI, Hiroaki INUI and Sadao OMATA	American Society for Reproductive Medicine 63rd Annual Meeting	Reliable ovum evaluation system by engineering technology, Micro Tactile Sensor (MTS) system for Elective Single embryo Transfer (eSET) on human ART	平成19年10月17日																										
Yoshonobu Murayama, Jinji Mizuno, Hirokazu Kamakura, Hiroko Nakamura, Kazuyuki Akaishi, Hiroaki Inui and Sadao Omata.	41st Annual Meeting of the Society for the Study of Reproduction	Mouse Zona Pellucida Mechanically Hardens in the Amount of Cortical Granule exudates dependent manner.	平成20年5月28日																										
5 著書・雑誌論文 (著書・雑誌・抜き刷り等を添付してください。コピーの場合は掲載されたことが客観的にわかるものを添付してください。)	<table border="1"> <thead> <tr> <th>著者・執筆者</th> <th>著書名・雑誌名/論文名</th> <th>巻・号</th> <th>年月</th> <th>出版社・発行所</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				著者・執筆者	著書名・雑誌名/論文名	巻・号	年月	出版社・発行所																				
著者・執筆者	著書名・雑誌名/論文名	巻・号	年月	出版社・発行所																									

※ホームページ等での公開の(可)否) いずれかを○で囲んでください。否の場合は、理由書を添付して下さい。



* 課題番号	奨 07-025
--------	----------

注：課題番号を記入してください。

## 平成19年度 学術研究助成金成果物報告書

平成 21 年 4 月 8 日

日 本 大 学 総 長

氏 名 高木 秀有



所属・資格 総合教育物理学教室・助手

下記のとおり提出いたします。

1	種 目	奨励研究 / 一般研究(個人研究) / 一般研究(共同研究) / 総合研究	注：該当する種目を○で囲んでください。		
2	研究課題	一定押込み歪み速度試験による高温力学特性評価法の確立			
3	研究組織 (共同研究・総合研究のみ該当します)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 研究代表者</li> <li>・ 研究分担者 (役割分担)</li> </ul>			
4	学会発表等 (要旨集の抜き刷り, 発表原稿のコピー等及び発表したことがわかるものを添付してください。)				
	発表者名	学会名	発表テーマ	発表年月	
	高木 秀有ほか	日本金属学会	擬定常押込みクリープの FE シミュレーション	2007 年 9 月	
	Hidenari Takagi et al	The Sixth Pacific Rim International Conference on Advanced Materials and Processing (PRICM6)	Creep Characterization of Power-Law Materials through Pseudo-Steady Indentation Tests	2007 年 1 月	
	Hidenari Takagi et al	The Eighth International Conference on Fundamentals of Fracture (ICFF VIII)	Computational Study of Pseudo-Steady Indentation Creep	2008 年 1 月	
	高木 秀有ほか	日本金属学会	擬定常押込みクリープの構成式と有限要素解析	2008 年 9 月	
	高木 秀有ほか	精密工学会	擬定常押込みクリープにおける圧子下の変形挙動に関する有限要素シミュレーション	2009 年 3 月	
5	著書・雑誌論文 (著書・雑誌・抜き刷り等を添付してください。コピーの場合は掲載されたことが客観的にわかるものを添付してください。)				
	著者・執筆者	著書名・雑誌名/論文名	巻・号	年月	出版社・発行所
	Hidenari Takagi Ming Dao and Masami Fujiwara	Acta Mechanica Solida Sinica/Analysis on pseudo-steady indentation creep	21	2008 年 8 月	AMSS Press

※ホームページ等での公開の  (可) 否) いずれかを○で囲んでください。否の場合は、理由書を添付して下さい。

6 その他の発表 新聞掲載			
発表/掲載者名	新聞名 (朝刊・夕刊)	掲載年月日	
その他 (ビデオ, CD, シナリオ, 写真, 舞台等)			
氏名	提出物	内容	数量
7 その他の成果 (下記のような成果があれば記入してください。)			
(知的財産権の取得)			
(外部資金の獲得)			
(他の研究への発展)			
(その他)			




* 課題番号	奨 07-026
--------	----------

注：課題番号を記入してください。

平成 19 年度 学術研究助成金成果物報告書

平成 21 年 4 月 22 日

日 本 大 学 総 長 殿

氏 名 谷 樹 昌 

所属・資格 医学部・助教

下記のとおり提出いたします。

1 種 目	<input checked="" type="radio"/> 奨励研究 / <input type="radio"/> 一般研究(個人研究) / <input type="radio"/> 一般研究(共同研究) / <input type="radio"/> 総合研究			注:該当する種目を○で囲んでください。																																								
2 研究課題	メタボリックシンドロームにおける HDL コレステロールと冠動脈硬化進展抑制との関係																																											
3 研究組織 (共同研究・総合研究のみ該当します)	・研究代表者  ・研究分担者 (役割分担)																																											
4 学会発表等 (要旨集の抜き刷り, 発表原稿のコピー等及び発表したことがわかるものを添付してください。)	<table border="1"> <thead> <tr> <th>発表者名</th> <th>学会名</th> <th>発表テーマ</th> <th>発表年月</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>Shigemasa Tani, et al.</td> <td>The 73<sup>rd</sup> Annual Scientific Meeting of The Japanese Circulation Society</td> <td>Effect of Combination of Moderate Lipid-lowering Therapy with Intensive Lifestyle Modification on Coronary Plaque Regression</td> <td>2009, March</td> </tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> </tbody> </table>				発表者名	学会名	発表テーマ	発表年月	Shigemasa Tani, et al.	The 73 <sup>rd</sup> Annual Scientific Meeting of The Japanese Circulation Society	Effect of Combination of Moderate Lipid-lowering Therapy with Intensive Lifestyle Modification on Coronary Plaque Regression	2009, March																																
発表者名	学会名	発表テーマ	発表年月																																									
Shigemasa Tani, et al.	The 73 <sup>rd</sup> Annual Scientific Meeting of The Japanese Circulation Society	Effect of Combination of Moderate Lipid-lowering Therapy with Intensive Lifestyle Modification on Coronary Plaque Regression	2009, March																																									
5 著書・雑誌論文 (著書・雑誌・抜き刷り等を添付してください。コピーの場合は掲載されたことが客観的にわかるものを添付してください。)	<table border="1"> <thead> <tr> <th>著者・執筆者</th> <th>著書名・雑誌名/論文名</th> <th>巻・号</th> <th>年月</th> <th>出版社・発行所</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> </tbody> </table>				著者・執筆者	著書名・雑誌名/論文名	巻・号	年月	出版社・発行所																																			
著者・執筆者	著書名・雑誌名/論文名	巻・号	年月	出版社・発行所																																								

※ホームページ等での公開の  (可)・ (否) いずれかを○で囲んでください。否の場合は, 理由書を添付して下さい。

6 その他の発表 新聞掲載			
発表/掲載者名	新聞名 (朝刊・夕刊)	掲載年月日	
その他 (ビデオ, CD, シナリオ, 写真, 舞台等)			
氏名	提出物	内容	数量
7 その他の成果 (下記のような成果があれば記入してください。)			
(知的財産権の取得)			
(外部資金の獲得)			
(他の研究への発展)			
(その他)			

* 課題番号	奨 07-027
--------	----------

注：課題番号を記入してください。

平成 19 年度 学術研究助成金成果物報告書

平成 21 年 4 月 28 日

日 本 大 学 総 長 殿

氏 名 中井 俊子



所属・資格 医学部・助教

下記のとおり提出いたします。

1 種 目	<input checked="" type="radio"/> 奨励研究 / <input type="radio"/> 一般研究(個人研究) / <input type="radio"/> 一般研究(共同研究) / <input type="radio"/> 総合研究			注: 該当する種目を○で囲んでください。																																								
2 研究課題	両室ペーシングつき除細動器の心不全・不整脈に対する効果に関する検討																																											
3 研究組織 (共同研究・総合研究のみ該当します)	・ 研究代表者  ・ 研究分担者 (役割分担)																																											
4 学会発表等 (要旨集の抜き刷り, 発表原稿のコピー等及び発表したことがわかるものを添付してください。)	<table border="1"> <thead> <tr> <th>発表者名</th> <th>学会名</th> <th>発表テーマ</th> <th>発表年月</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>中井 俊子、他 10 名</td> <td>第1回植込みデバイス関連 冬季大会</td> <td>DFT 後に多臓器不全を来たして死亡した CRT-D の 1 症例</td> <td>2009 年 2 月</td> </tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> </tbody> </table>				発表者名	学会名	発表テーマ	発表年月	中井 俊子、他 10 名	第1回植込みデバイス関連 冬季大会	DFT 後に多臓器不全を来たして死亡した CRT-D の 1 症例	2009 年 2 月																																
発表者名	学会名	発表テーマ	発表年月																																									
中井 俊子、他 10 名	第1回植込みデバイス関連 冬季大会	DFT 後に多臓器不全を来たして死亡した CRT-D の 1 症例	2009 年 2 月																																									
5 著書・雑誌論文 (著書・雑誌・抜き刷り等を添付してください。コピーの場合は掲載されたことが客観的にわかるものを添付してください。)	<table border="1"> <thead> <tr> <th>著者・執筆者</th> <th>著書名・雑誌名/論文名</th> <th>巻・号</th> <th>年月</th> <th>出版社・発行所</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> </tbody> </table>				著者・執筆者	著書名・雑誌名/論文名	巻・号	年月	出版社・発行所																																			
著者・執筆者	著書名・雑誌名/論文名	巻・号	年月	出版社・発行所																																								

※ホームページ等での公開の (可)・否) いずれかを○で囲んでください。否の場合は、理由書を添付して下さい。

6 その他の発表 新聞掲載			
発表／掲載者名	新聞名 (朝刊・夕刊)	掲載年月日	
その他 (ビデオ, CD, シナリオ, 写真, 舞台等)			
氏名	提出物	内容	数量
7 その他の成果 (下記のような成果があれば記入してください。)			
(知的財産権の取得)			
(外部資金の獲得)			
(他の研究への発展)			
(その他)			

【別紙様式 9】

\* 課題番号

奨 07-028

注：課題番号を記入してください。

## 平成19年度 学術研究助成金成果物報告書

平成 21 年 4 月 4 日

日 本 大 学 総 長 殿

氏 名 知久 正明



所属・資格 医学部・助教

下記のとおり提出いたします。

1 種目	<input checked="" type="radio"/> 奨励研究	一般研究(個人研究) / 一般研究(共同研究) / 総合研究	注：該当する種目を○で囲んでください。		
2 研究課題	虚血性心疾患に合併した閉塞性動脈硬化症に対するベラプロストの末梢循環改善の検討				
3 研究組織 (共同研究・総合研究のみ該当します)	・ 研究代表者  ・ 研究分担者 (役割分担)				
4 学会発表等 (要旨集の抜き刷り, 発表原稿のコピー等及び発表したことがわかるものを添付してください。)					
発表者名	学会名	発表テーマ	発表年月		
知久 正明、他 4 名	第 49 回日本脈管学会総会 シンポジウム	脳心腎血管連関からみたバスキュラーラ ボ	2008 年 10 月		
5 著書・雑誌論文 (著書・雑誌・抜き刷り等を添付してください。コピーの場合は掲載されたことが客観的にわかるものを添付してください。)					
著者・執筆者	著書名・雑誌名/論文名	巻・号	年月	出版社・発行所	

※ホームページ等での公開の (可)・否) いずれかを○で囲んでください。否の場合は、理由書を添付して下さい。

6 その他の発表 新聞掲載			
発表/掲載者名	新聞名 (朝刊・夕刊)	掲載年月日	
その他 (ビデオ, CD, シナリオ, 写真, 舞台等)			
氏名	提出物	内容	数量
7 その他の成果 (下記のような成果があれば記入してください。)			
(知的財産権の取得)			
(外部資金の獲得)			
(他の研究への発展)			
(その他)			

【別紙様式 9】

\* 課題番号

奨 07-029

注：課題番号を記入してください。

平成19年度 学術研究助成金成果物報告書

平成 21 年 4 月 13 日

日 本 大 学 総 長 殿

氏 名 高柳(須田) たかね

所属・資格 医学部・専修医



下記のとおり提出いたします。

1 種 目	奨励研究 / 一般研究(個人研究) / 一般研究(共同研究) / 総合研究			注：該当する種目を○で囲んでください。																																													
2 研究課題	後天性皮膚弛緩症の免疫組織学的検討																																																
3 研究組織 (共同研究・総合研究のみ該当します)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・研究代表者</li> <li>・研究分担者 (役割分担)</li> </ul>																																																
4 学会発表等 (要旨集の抜き刷り、発表原稿のコピー等及び発表したことがわかるものを添付してください)	<table border="1"> <thead> <tr> <th>発表者名</th> <th>学会名</th> <th>発表テーマ</th> <th>発表年月</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> </tbody> </table>				発表者名	学会名	発表テーマ	発表年月																																									
発表者名	学会名	発表テーマ	発表年月																																														
5 著書・雑誌論文 (著書・雑誌・抜き刷り等を添付してください。コピーの場合は掲載されたことが客観的にわかるものを添付してください)	<table border="1"> <thead> <tr> <th>著者・執筆者</th> <th>著書名・雑誌名／論文名</th> <th>巻・号</th> <th>年月</th> <th>出版社・発行所</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>Takane Suda, et al.</td> <td>Am J Dermatopathol / Immunohistochemical Investigation of Mid-Dermal Elastolysis With a History of Erythema</td> <td>30・5</td> <td>2008 October</td> <td>Lippincott Williams &amp; Wilkins</td> </tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> </tbody> </table>				著者・執筆者	著書名・雑誌名／論文名	巻・号	年月	出版社・発行所	Takane Suda, et al.	Am J Dermatopathol / Immunohistochemical Investigation of Mid-Dermal Elastolysis With a History of Erythema	30・5	2008 October	Lippincott Williams & Wilkins																																			
著者・執筆者	著書名・雑誌名／論文名	巻・号	年月	出版社・発行所																																													
Takane Suda, et al.	Am J Dermatopathol / Immunohistochemical Investigation of Mid-Dermal Elastolysis With a History of Erythema	30・5	2008 October	Lippincott Williams & Wilkins																																													

※ホームページ等での公開の (○)・否) いずれかを○で囲んでください。否の場合は、理由書を添付して下さい。

6 その他の発表 新聞掲載			
発表／掲載者名	新聞名 (朝刊・夕刊)	掲載年月日	
その他 (ビデオ, CD, シナリオ, 写真, 舞台等)			
氏名	提出物	内容	数量
7 その他の成果 (下記のような成果があれば記入してください。)			
(知的財産権の取得)			
(外部資金の獲得)			
(他の研究への発展)			
(その他)			
<p>今回の研究テーマである後天性皮膚弛緩症の免疫組織学的検討を行なったところ、蕁麻疹様紅斑の組織と弛緩部位の組織に有意差はみられず、フィブリン-5が、弾性線維の再生過程に関与しているとは推測できなかった。そのため、今回研究成果はでなかった。同じ弾性線維疾患においても弛緩する機序が、後天性皮膚弛緩症と mid-dermal elastolysis (今回提出した論文) では発症機序が異なると考えられた。</p>			



* 課題番号	奨 07-030
--------	----------

注：課題番号を記入してください。

## 平成19年度 学術研究助成金成果物報告書

平成 21 年 4 月 8 日

日 本 大 学 総 長 殿

氏 名 \_\_\_\_\_ 古 市 基 彦 \_\_\_\_\_



所属・資格 \_\_\_\_\_ 医学部・助手 \_\_\_\_\_

下記のとおり提出いたします。

1 種 目	<input checked="" type="radio"/> 奨励研究 / 一般研究(個人研究) / 一般研究(共同研究) / 総合研究	注：該当する種目を○で囲んでください。
2 研究課題	肺癌手術症例におけるシベレスタットナトリウム水和物による肺機能保護について	
3 研究組織 (共同研究・総合研究のみ該当します)	・研究代表者  ・研究分担者 (役割分担)	
4 学会発表等 (要旨集の抜き刷り、発表原稿のコピー等及び発表したことがわかるものを添付してください。)		
発表者名	学会名	発表テーマ
古市 基彦、他6名	第488回 日大医学会例会	肺葉切除後の術後経過に及ぼす、シベレスタットの効果
5 著書・雑誌論文 (著書・雑誌・抜き刷り等を添付してください。コピーの場合は掲載されたことが客観的にわかるものを添付してください。)		
著者・執筆者	著書名・雑誌名/論文名	巻・号

※ホームページ等での公開の (可)・否) いずれかを○で囲んでください。否の場合は、理由書を添付して下さい。

6 その他の発表 新聞掲載			
発表／掲載者名	新聞名 (朝刊・夕刊)	掲載年月日	
その他 (ビデオ, CD, シナリオ, 写真, 舞台等)			
氏名	提出物	内容	数量
7 その他の成果 (下記のような成果があれば記入してください。)			
(知的財産権の取得)			
(外部資金の獲得)			
(他の研究への発展)			
(その他)			

* 課題番号	奨 07-031
--------	----------

注：課題番号を記入してください。

## 平成 19 年度 学術研究助成金成果物報告書

平成 21 年 3 月 9 日

日 本 大 学 総 長 殿

氏 名                      布村 聡 

所属・資格                      医学部・助教

下記のとおり提出いたします。

1 種目	<input checked="" type="radio"/> 奨励研究 / <input type="radio"/> 一般研究(個人研究) / <input type="radio"/> 一般研究(共同研究) / <input type="radio"/> 総合研究	注：該当する種目を○で囲んでください。		
2 研究課題	オキシステロールによるマスト細胞アポトーシス誘導機構の解析			
3 研究組織（共同研究・総合研究のみ該当します）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 研究代表者</li>   <li>・ 研究分担者（役割分担）</li> </ul>			
4 学会発表等（要旨集の抜き刷り、発表原稿のコピー等及び発表したことがわかるものを添付してください。）				
発表者名	学会名	発表テーマ	発表年月	
福永牧子、布村聡、権寧博、橋本修、羅智靖	第 57 回日本アレルギー学会秋季学術大会	オキシステロールによるマスト細胞の細胞死誘導機構の解析	平成 19 年 11 月	
布村聡、羅智靖	第 58 回日本アレルギー学会秋季学術大会	細胞内脂質代謝の恒常性は、マスト細胞における FcεRI 発現と FcεRI を介した活性化に重要である	平成 20 年 11 月	
5 著書・雑誌論文（著書・雑誌・抜き刷り等を添付してください。コピーの場合は掲載されたことが客観的にわかるものを添付してください。）				
著者・執筆者	著書名・雑誌名／論文名	巻・号	年月	出版社・発行所

※ホームページ等での公開の  可 /  否 いずれかを○で囲んでください。否の場合は、理由書を添付して下さい。

6 その他の発表 新聞掲載			
発表／掲載者名	新聞名 (朝刊・夕刊)	掲載年月日	
その他 (ビデオ, CD, シナリオ, 写真, 舞台等)			
氏名	提出物	内容	数量
7 その他の成果 (下記のような成果があれば記入してください。)			
(知的財産権の取得)			
(外部資金の獲得)			
(他の研究への発展)			
オキシステロールが、低濃度では高親和性 IgE 受容体を介したマスト細胞の活性化を抑制する作用を有することを発見し、その作用機序の解明に研究を進展している。			
(その他)			

*課題番号	奨 07-032
-------	----------

注：課題番号を記入してください。

平成19年度 学術研究助成金成果物報告書

平成 21 年 4 月 2 日

日 本 大 学 総 長 殿

氏 名 西田 弥生



所属・資格 医学部・助教

下記のとおり提出いたします。

1 種目	<input checked="" type="radio"/> 奨励研究 / <input type="radio"/> 一般研究(個人研究) / <input type="radio"/> 一般研究(共同研究) / <input type="radio"/> 総合研究			注：該当する種目を○で囲んでください。																																			
2 研究課題	疾患モデル動物を用いた遺伝子発現解析																																						
3 研究組織 (共同研究・総合研究のみ該当します)	・研究代表者  ・研究分担者 (役割分担)																																						
4 学会発表等 (要旨集の抜き刷り、発表原稿のコピー等及び発表したことがわかるものを添付してください)	<table border="1"> <thead> <tr> <th>発表者名</th> <th>学会名</th> <th>発表テーマ</th> <th>発表年月</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> </tbody> </table>				発表者名	学会名	発表テーマ	発表年月																															
発表者名	学会名	発表テーマ	発表年月																																				
5 著書・雑誌論文 (著書・雑誌・抜き刷り等を添付してください。コピーの場合は掲載されたことが客観的にわかるものを添付してください)	<table border="1"> <thead> <tr> <th>著者・執筆者</th> <th>著書名・雑誌名/論文名</th> <th>巻・号</th> <th>年月</th> <th>出版社・発行所</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>Yayoi Nishida, et al.</td> <td>J Pharmacol Sci / Decreased Expression of Angiotensin II Type 1 and Type 2 Receptors in the Brain After Long-Term Administration of Antihypertensive Drugs in Stroke-Prone Spontaneously Hypertensive Rat</td> <td>106・4</td> <td>2008 April</td> <td>The Japanese Pharmacological Society</td> </tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> </tbody> </table>				著者・執筆者	著書名・雑誌名/論文名	巻・号	年月	出版社・発行所	Yayoi Nishida, et al.	J Pharmacol Sci / Decreased Expression of Angiotensin II Type 1 and Type 2 Receptors in the Brain After Long-Term Administration of Antihypertensive Drugs in Stroke-Prone Spontaneously Hypertensive Rat	106・4	2008 April	The Japanese Pharmacological Society																									
著者・執筆者	著書名・雑誌名/論文名	巻・号	年月	出版社・発行所																																			
Yayoi Nishida, et al.	J Pharmacol Sci / Decreased Expression of Angiotensin II Type 1 and Type 2 Receptors in the Brain After Long-Term Administration of Antihypertensive Drugs in Stroke-Prone Spontaneously Hypertensive Rat	106・4	2008 April	The Japanese Pharmacological Society																																			

※ホームページ等での公開の  (可)・ (否) いずれかを○で囲んでください。否の場合は、理由書を添付して下さい。

6 その他の発表 新聞掲載			
発表/掲載者名	新聞名 (朝刊・夕刊)	掲載年月日	
その他 (ビデオ, CD, シナリオ, 写真, 舞台等)			
氏名	提出物	内容	数量
7 その他の成果 (下記のような成果があれば記入してください。)			
(知的財産権の取得)			
(外部資金の獲得)			
(他の研究への発展)			
(その他)			

【別紙様式 9】

* 課題番号	奨 07-033
--------	----------

注：課題番号を記入してください。

## 平成19年度 学術研究助成金成果物報告書

平成 21 年 4 月 27 日

日 本 大 学 総 長 殿

氏 名 高橋 泰夫



所属・資格 医学部・助教

下記のとおり提出いたします。

1 種目	<input checked="" type="radio"/> 奨励研究 / <input type="radio"/> 一般研究(個人研究) / <input type="radio"/> 一般研究(共同研究) / <input type="radio"/> 総合研究			注：該当する種目を○で囲んでください。																																			
2 研究課題	ラット肝虚血・再灌流モデルにおける網羅的な遺伝子発現解析																																						
3 研究組織 (共同研究・総合研究のみ該当します)	<ul style="list-style-type: none"> <li>研究代表者</li> <li>研究分担者 (役割分担)</li> </ul>																																						
4 学会発表等 (要旨集の抜き刷り、発表原稿のコピー等及び発表したことがわかるものを添付してください。)	<table border="1"> <thead> <tr> <th>発表者名</th> <th>学会名</th> <th>発表テーマ</th> <th>発表年月</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> </tbody> </table>				発表者名	学会名	発表テーマ	発表年月																															
発表者名	学会名	発表テーマ	発表年月																																				
5 著書・雑誌論文 (著書・雑誌・抜き刷り等を添付してください。コピーの場合は掲載されたことが客観的にわかるものを添付してください。)	<table border="1"> <thead> <tr> <th>著者・執筆者</th> <th>著書名・雑誌名/論文名</th> <th>巻・号</th> <th>年月</th> <th>出版社・発行所</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>Megumi Sugahara Kobayashi, Yasuo Takahashi, et al.</td> <td>BRAIN RESEARCH REVIEWS / Global profiling of influence of intra-ischemic brain temperature on gene expression in rat brain</td> <td>58・1</td> <td>2008 June</td> <td>ELSEVIER</td> </tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> </tbody> </table>				著者・執筆者	著書名・雑誌名/論文名	巻・号	年月	出版社・発行所	Megumi Sugahara Kobayashi, Yasuo Takahashi, et al.	BRAIN RESEARCH REVIEWS / Global profiling of influence of intra-ischemic brain temperature on gene expression in rat brain	58・1	2008 June	ELSEVIER																									
著者・執筆者	著書名・雑誌名/論文名	巻・号	年月	出版社・発行所																																			
Megumi Sugahara Kobayashi, Yasuo Takahashi, et al.	BRAIN RESEARCH REVIEWS / Global profiling of influence of intra-ischemic brain temperature on gene expression in rat brain	58・1	2008 June	ELSEVIER																																			

※ホームページ等での公開の  可  否 いずれかを○で囲んでください。否の場合は、理由書を添付して下さい。

6 その他の発表 新聞掲載			
発表／掲載者名	新聞名 (朝刊・夕刊)	掲載年月日	
その他 (ビデオ, CD, シナリオ, 写真, 舞台等)			
氏名	提出物	内容	数量
7 その他の成果 (下記のような成果があれば記入してください。)			
(知的財産権の取得)			
(外部資金の獲得)			
(他の研究への発展)			
(その他)			



* 課題番号	奨 07-034
--------	----------

注：課題番号を記入してください。

平成 19 年度 学術研究助成金成果物報告書

平成 21 年 4 月 1 日

日 本 大 学 総 長 殿

氏 名 田邊 奈津子



所属・資格 歯学部・助教

下記のとおり提出いたします。

1 種目	<input checked="" type="radio"/> 奨励研究 / <input type="radio"/> 一般研究(個人研究) / <input type="radio"/> 一般研究(共同研究) / <input type="radio"/> 総合研究			注：該当する種目を○で囲んでください。																									
2 研究課題	破骨細胞前駆細胞の骨吸収関連酵素タンパク発現に及ぼす IL-1 $\alpha$ の影響の解明																												
3 研究組織 (共同研究・総合研究のみ該当します)	・研究代表者 田邊奈津子 ・研究分担者 (役割分担)																												
4 学会発表等 (要旨集の抜き刷り、発表原稿のコピー等及び発表したことがわかるものを添付してください)	<table border="1"> <thead> <tr> <th>発表者名</th> <th>学会名</th> <th>発表テーマ</th> <th>発表年月</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>藤崎亨輔, 田邊奈津子, 北見 聡, 木村明美, 両角 且, 佐藤節子, 菅谷敦人, 前野正夫</td> <td>第 56 回日本口腔衛生学会・総会</td> <td>RANKL は破骨細胞の骨吸収関連酵素発現を促進する</td> <td>2007 年 10 月</td> </tr> <tr> <td>渡部悠介, 會田有希子, 田邊奈津子, 難波亜希, 本田和寛, 清水 治, 鈴木直人, 松村英雄, 前野正夫</td> <td>第 60 回日本大学歯学会総会</td> <td>IL-1B は PGE<sub>2</sub> 産生増加を介してヒト軟骨細胞の EP4 受容体発現を促進する</td> <td>2008 年 5 月</td> </tr> <tr> <td> </td> <td> </td> <td> </td> <td> </td> </tr> <tr> <td> </td> <td> </td> <td> </td> <td> </td> </tr> <tr> <td> </td> <td> </td> <td> </td> <td> </td> </tr> </tbody> </table>				発表者名	学会名	発表テーマ	発表年月	藤崎亨輔, 田邊奈津子, 北見 聡, 木村明美, 両角 且, 佐藤節子, 菅谷敦人, 前野正夫	第 56 回日本口腔衛生学会・総会	RANKL は破骨細胞の骨吸収関連酵素発現を促進する	2007 年 10 月	渡部悠介, 會田有希子, 田邊奈津子, 難波亜希, 本田和寛, 清水 治, 鈴木直人, 松村英雄, 前野正夫	第 60 回日本大学歯学会総会	IL-1B は PGE <sub>2</sub> 産生増加を介してヒト軟骨細胞の EP4 受容体発現を促進する	2008 年 5 月													
発表者名	学会名	発表テーマ	発表年月																										
藤崎亨輔, 田邊奈津子, 北見 聡, 木村明美, 両角 且, 佐藤節子, 菅谷敦人, 前野正夫	第 56 回日本口腔衛生学会・総会	RANKL は破骨細胞の骨吸収関連酵素発現を促進する	2007 年 10 月																										
渡部悠介, 會田有希子, 田邊奈津子, 難波亜希, 本田和寛, 清水 治, 鈴木直人, 松村英雄, 前野正夫	第 60 回日本大学歯学会総会	IL-1B は PGE <sub>2</sub> 産生増加を介してヒト軟骨細胞の EP4 受容体発現を促進する	2008 年 5 月																										
5 著書・雑誌論文 (著書・雑誌・抜き刷り等を添付してください。コピーの場合は掲載されたことが客観的にわかるものを添付してください)	<table border="1"> <thead> <tr> <th>著者・執筆者</th> <th>著書名・雑誌名/論文名</th> <th>巻・号</th> <th>年月</th> <th>出版社・発行所</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>Watanabe Y, Namba A, Honda K, Aida Y, Matsumura H, Shimizu O, Suzuki N, Tanabe N, Maeno M</td> <td>IL-1<math>\beta</math> stimulates the expression of prostaglandin receptor EP4 in human chondrocytes by increasing production of prostaglandin E<sub>2</sub> · Connective Tissue Research</td> <td>In press</td> <td>2009 年</td> <td>Informa</td> </tr> <tr> <td> </td> <td> </td> <td> </td> <td> </td> <td> </td> </tr> <tr> <td> </td> <td> </td> <td> </td> <td> </td> <td> </td> </tr> <tr> <td> </td> <td> </td> <td> </td> <td> </td> <td> </td> </tr> </tbody> </table>				著者・執筆者	著書名・雑誌名/論文名	巻・号	年月	出版社・発行所	Watanabe Y, Namba A, Honda K, Aida Y, Matsumura H, Shimizu O, Suzuki N, Tanabe N, Maeno M	IL-1 $\beta$ stimulates the expression of prostaglandin receptor EP4 in human chondrocytes by increasing production of prostaglandin E <sub>2</sub> · Connective Tissue Research	In press	2009 年	Informa															
著者・執筆者	著書名・雑誌名/論文名	巻・号	年月	出版社・発行所																									
Watanabe Y, Namba A, Honda K, Aida Y, Matsumura H, Shimizu O, Suzuki N, Tanabe N, Maeno M	IL-1 $\beta$ stimulates the expression of prostaglandin receptor EP4 in human chondrocytes by increasing production of prostaglandin E <sub>2</sub> · Connective Tissue Research	In press	2009 年	Informa																									

※ホームページ等での公開の (  ) ・否) いずれかを○で囲んでください。否の場合は、理由書を添付して下さい。



* 課題番号	奨 07-036
--------	----------

注：課題番号を記入してください。

## 平成 19 年度 学術研究助成金成果物報告書

平成 21 年 4 月 1 日

日 本 大 学 総 長 殿

氏 名 表山 和樹



所属・資格 歯学部・助教

下記のとおり提出いたします。

1	種 目 <input checked="" type="radio"/> 奨励研究 / <input type="radio"/> 一般研究(個人研究) / <input type="radio"/> 一般研究(共同研究) / <input type="radio"/> 総合研究	注：該当する種目を○で囲んでください。
2	研究課題 骨形成に関する研究、特に Foxc2 の生理作用に関する研究	
3	研究組織（共同研究・総合研究のみ該当します） ・研究代表者  ・研究分担者（役割分担）	
4	学会発表等（要旨集の抜き刷り、発表原稿のコピー等及び発表したことがわかるものを添付してください。）	
	発表者名	学会名
	発表テーマ	発表年月
	表山和樹	第 114 回日本解剖学会
	線維芽細胞増殖因子 FGF8 は Runx2 を誘導することによって骨芽細胞分化を促進し、筋芽細胞分化を抑制する	2009 年 3 月
5	著書・雑誌論文（著書・雑誌・抜き刷り等を添付してください。コピーの場合は掲載されたことが客観的にわかるものを添付してください。）	
	著者・執筆者	著書名・雑誌名／論文名
	巻・号	年月
	出版社・発行所	
	表山和樹	Journal of Cellular Biochemistry / FGF8 regulates myogenesis and induces Runx2 expression and osteoblast differentiation in cultured cells
	106 5	2009 年 3 月
	J Cell Biochem	

※ホームページ等での公開の  (可)・ (否) いずれかを○で囲んでください。否の場合は、理由書を添付して下さい。

6 その他の発表 新聞掲載			
発表/掲載者名	新聞名 (朝刊・夕刊)	掲載年月日	
その他 (ビデオ, CD, シナリオ, 写真, 舞台等)			
氏名	提出物	内容	数量
7 その他の成果 (下記のような成果があれば記入してください。)			
(知的財産権の取得)			
(外部資金の獲得)			
(他の研究への発展)			
(その他)			

* 課題番号	奨07-037
--------	---------

注：課題番号を記入してください。

## 平成19年度 学術研究助成金成果物報告書

平成 21 年 3 月 25 日

日本大学 総長 殿

氏 名 小峰 太



所属・資格 歯学部・助教

下記のとおり提出いたします。

1	種 目 <input checked="" type="radio"/> 奨励研究 / <input type="radio"/> 一般研究(個人研究) / <input type="radio"/> 一般研究(共同研究) / <input type="radio"/> 総合研究	注：該当する種目を○で囲んでください。
2	研究課題 酸化ジルコニウムセラミックコーピングの適合に関する研究	
3	研究組織（共同研究・総合研究のみ該当します） ・研究代表者  ・研究分担者（役割分担）	
4	学会発表等（要旨集の抜き刷り、発表原稿のコピー等及び発表したことがわかるものを添付してください。）	
	発表者名	学会名
	発表テーマ	発表年月
	岩井貴之, 小峰 太 他 8名	平成20年度(社)日本補綴歯科学会 東京支部・関東支部合同学術大会
	支台歯テーパ角およびセメントスペース量が ジルコニアコーピングの適合に及ぼす影響	平成20年10月18 日
5	著書・雑誌論文（著書・雑誌・抜き刷り等を添付してください。コピーの場合は掲載されたことが客観的にわかるものを添付してください。）	
	著者・執筆者	著書名・雑誌名／論文名
	巻・号	年月
	出版社・発行所	
	Iwai T, Komine F et al.	Acta Odontologica Scandinavica / Influence of convergence angle and cement space on adaptation of zirconium dioxide ceramic copings
	66・4	2008.6
		Informa Healthcare

※ホームページ等での公開の  (可) /  (否) いずれかを○で囲んでください。否の場合は、理由書を添付して下さい。



* 課題番号	奨 07-038
--------	----------

注：課題番号を記入してください。

## 平成 19 年度 学術研究助成金成果物報告書

平成 21 年 4 月 8 日

日 本 大 学 総 長 殿

氏 名 李 淳

所属・資格 歯学部・助教

下記のとおり提出いたします。

1	種 目 <input checked="" type="radio"/> 奨励研究 / <input type="radio"/> 一般研究(個人研究) / <input type="radio"/> 一般研究(共同研究) / <input type="radio"/> 総合研究	注：該当する種目を○で囲んでください。
2	研究課題 口腔内物体認知能の調査・検討—義歯装着者および高齢者を想定して—	
3	研究組織（共同研究・総合研究のみ該当します） ・研究代表者  ・研究分担者（役割分担）	
4	学会発表等（要旨集の抜き刷り、発表原稿のコピー等及び発表したことがわかるものを添付してください。）	
	発表者名	学会名
	発表テーマ	発表年月
	李 淳, 成田浩実, 成田達哉, 祇園白信仁	第 60 回日本大学歯学会総 会・学術大会
	口腔内物質の大きさ弁別能は視覚や 触覚入力によって上昇する	2008 年 5 月
5	著書・雑誌論文（著書・雑誌・抜き刷り等を添付してください。コピーの場合は掲載されたことが客観的にわかるものを添付してください。）	
	著者・執筆者	著書名・雑誌名／論文名
	巻・号	年月
	出版社・発行所	
	李 淳	○李 淳, 成田浩実, 成田達哉, 伊藤智加, 谷口 洋平, 祇園白信仁 日大歯学 『口腔内における物質の大きさ弁別能は視覚 や手指の触覚入力により上昇する』
	83 巻 1 号	2009 年 3 月
	日本大学歯学会	

※ホームページ等での公開の  可  否 いずれかを○で囲んでください。否の場合は、理由書を添付して下さい。

6 その他の発表 新聞掲載			
発表／掲載者名	新聞名 (朝刊・夕刊)	掲載年月日	
その他 (ビデオ, CD, シナリオ, 写真, 舞台等)			
氏名	提出物	内容	数量
7 その他の成果 (下記のような成果があれば記入してください。)			
(知的財産権の取得)			
(外部資金の獲得)			
(他の研究への発展)			
(その他)			



*課題番号	奨 07-039
-------	----------

注：課題番号を記入してください。

平成19年度 学術研究助成金成果物報告書

平成 21 年 4 月 8 日

日 本 大 学 総 長 殿

氏 名 高見澤 俊樹



所属・資格 歯学部・助教

下記のとおり提出いたします。

1 種目	<input checked="" type="radio"/> 奨励研究 / <input type="radio"/> 一般研究(個人研究) / <input type="radio"/> 一般研究(共同研究) / <input type="radio"/> 総合研究			注：該当する種目を○で囲んでください。																																
2 研究課題	被着面の表面粗さがシングルステップシステムの象牙質接着性に及ぼす影響																																			
3 研究組織 (共同研究・総合研究のみ該当します)	・研究代表者 高見澤 俊樹 ・研究分担者 (役割分担)																																			
4 学会発表等 (要旨集の抜き刷り、発表原稿のコピー等及び発表したことがわかるものを添付してください)	<table border="1"> <thead> <tr> <th>発表者名</th> <th>学会名</th> <th>発表テーマ</th> <th>発表年月</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>辻本暁正, 高見澤俊樹 他 7 名</td> <td>第 128 回日本歯科保存学会</td> <td>アドヒーシブの塗布時間がエナメル質のヌレ性に及ぼす影響</td> <td>2008 年 6 月 5 日</td> </tr> <tr> <td>辻本暁正, 高見澤俊樹 他 6 名</td> <td>第 51 回日本歯科理工学会</td> <td>ワンステップ接着システムの歯質に対するヌレ性の評価</td> <td>2008 年 9 月 20 日</td> </tr> <tr> <td>高見澤俊樹, 他 7 名</td> <td>第 129 回日本歯科保存学会</td> <td>コンポジットレジンの種類がセルフエッチシステムの歯質接着性に及ぼす影響</td> <td>2008 年 11 月 5 日</td> </tr> <tr> <td> </td> <td> </td> <td> </td> <td> </td> </tr> <tr> <td> </td> <td> </td> <td> </td> <td> </td> </tr> <tr> <td> </td> <td> </td> <td> </td> <td> </td> </tr> <tr> <td> </td> <td> </td> <td> </td> <td> </td> </tr> </tbody> </table>				発表者名	学会名	発表テーマ	発表年月	辻本暁正, 高見澤俊樹 他 7 名	第 128 回日本歯科保存学会	アドヒーシブの塗布時間がエナメル質のヌレ性に及ぼす影響	2008 年 6 月 5 日	辻本暁正, 高見澤俊樹 他 6 名	第 51 回日本歯科理工学会	ワンステップ接着システムの歯質に対するヌレ性の評価	2008 年 9 月 20 日	高見澤俊樹, 他 7 名	第 129 回日本歯科保存学会	コンポジットレジンの種類がセルフエッチシステムの歯質接着性に及ぼす影響	2008 年 11 月 5 日																
発表者名	学会名	発表テーマ	発表年月																																	
辻本暁正, 高見澤俊樹 他 7 名	第 128 回日本歯科保存学会	アドヒーシブの塗布時間がエナメル質のヌレ性に及ぼす影響	2008 年 6 月 5 日																																	
辻本暁正, 高見澤俊樹 他 6 名	第 51 回日本歯科理工学会	ワンステップ接着システムの歯質に対するヌレ性の評価	2008 年 9 月 20 日																																	
高見澤俊樹, 他 7 名	第 129 回日本歯科保存学会	コンポジットレジンの種類がセルフエッチシステムの歯質接着性に及ぼす影響	2008 年 11 月 5 日																																	
5 著書・雑誌論文 (著書・雑誌・抜き刷り等を添付してください。コピーの場合は掲載されたことが客観的にわかるものを添付してください)	<table border="1"> <thead> <tr> <th>著者・執筆者</th> <th>著書名・雑誌名/論文名</th> <th>巻・号</th> <th>年月</th> <th>出版社・発行所</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>Watanabe T, Takamizawa T, et al.</td> <td>Operative dentistry/Effect of prior acid etching on bonding durability of single-step adhesives</td> <td>33・4</td> <td>2008 年 7 月</td> <td>ACADEMY OF OPERATIVE DENTISTRY</td> </tr> <tr> <td>Ikeda M, Takamizawa T, et al.</td> <td>Operative dentistry/Bonding durability of single-step adhesives to previously acid-etched dentin</td> <td>33・6</td> <td>2008 年 11 月</td> <td>ACADEMY OF OPERATIVE DENTISTRY</td> </tr> <tr> <td> </td> <td> </td> <td> </td> <td> </td> <td> </td> </tr> <tr> <td> </td> <td> </td> <td> </td> <td> </td> <td> </td> </tr> <tr> <td> </td> <td> </td> <td> </td> <td> </td> <td> </td> </tr> </tbody> </table>				著者・執筆者	著書名・雑誌名/論文名	巻・号	年月	出版社・発行所	Watanabe T, Takamizawa T, et al.	Operative dentistry/Effect of prior acid etching on bonding durability of single-step adhesives	33・4	2008 年 7 月	ACADEMY OF OPERATIVE DENTISTRY	Ikeda M, Takamizawa T, et al.	Operative dentistry/Bonding durability of single-step adhesives to previously acid-etched dentin	33・6	2008 年 11 月	ACADEMY OF OPERATIVE DENTISTRY																	
著者・執筆者	著書名・雑誌名/論文名	巻・号	年月	出版社・発行所																																
Watanabe T, Takamizawa T, et al.	Operative dentistry/Effect of prior acid etching on bonding durability of single-step adhesives	33・4	2008 年 7 月	ACADEMY OF OPERATIVE DENTISTRY																																
Ikeda M, Takamizawa T, et al.	Operative dentistry/Bonding durability of single-step adhesives to previously acid-etched dentin	33・6	2008 年 11 月	ACADEMY OF OPERATIVE DENTISTRY																																

※ホームページ等での公開の (◎・否) いずれかを○で囲んでください。否の場合は、理由書を添付して下さい。

6 その他の発表 新聞掲載			
発表/掲載者名	新聞名 (朝刊・夕刊)	掲載年月日	
その他 (ビデオ, CD, シナリオ, 写真, 舞台等)			
氏名	提出物	内容	数量
7 その他の成果 (下記のような成果があれば記入してください。)			
(知的財産権の取得)			
(外部資金の獲得)			
(他の研究への発展)			
<p>シングルステップ接着システムの象牙質に対する接着機構の解明に寄与          界面科学的なアプローチによる接着機構の解明に寄与</p>			
(その他)			

*課題番号	奨 07-040
-------	----------

注：課題番号を記入してください。

平成19年度 学術研究助成金成果物報告書

平成 21 年 4 月 8 日

日 本 大 学 総 長 殿

氏 名 小森 規雄



所属・資格 歯学部・助教

下記のとおり提出いたします。

1 種目  奨励研究 / 一般研究(個人研究) / 一般研究(共同研究) / 総合研究 注：該当する種目を○で囲んでください。

2 研究課題  
チタンメディカルアパタイトの生体親和性に関する研究

3 研究組織（共同研究・総合研究のみ該当します）  
・研究代表者  
  
・研究分担者（役割分担）

4 学会発表等（要旨集の抜き刷り、発表原稿のコピー等及び発表したことがわかるものを添付してください。）

発表者名	学会名	発表テーマ	発表年月
Hayashi Makoto, Norio Komori, K Tamura, T Fujita, Y Morisaki and B Ogiso	56 th American Academy of Implant Dentistry	A Study of Biocompatibility about Titanium Medical Apatite(TMA)	2007年11月

5 著書・雑誌論文（著書・雑誌・抜き刷り等を添付してください。コピーの場合は掲載されたことが客観的にわかるものを添付してください。）

著者・執筆者	著書名・雑誌名/論文名	巻・号	年月	出版社・発行所

※ホームページ等での公開の  可・否） いずれかを○で囲んでください。否の場合は、理由書を添付して下さい。

6 その他の発表 新聞掲載			
発表/掲載者名	新聞名 (朝刊・夕刊)	掲載年月日	
その他 (ビデオ, CD, シナリオ, 写真, 舞台等)			
氏名	提出物	内容	数量
7 その他の成果 (下記のような成果があれば記入してください。)			
(知的財産権の取得)			
(外部資金の獲得)			
(他の研究への発展)			
(その他)			

【別紙様式 9】

* 課題番号	奨 07-042
--------	----------

注：課題番号を記入してください。

## 平成19年度 学術研究助成金成果物報告書

平成 21 年 3 月 4 日

日 本 大 学 総 長 殿

氏 名 橋 爪 智 美



所属・資格 松戸歯学部・助手

下記のとおり提出いたします。

1	種 目 <input checked="" type="radio"/> 奨励研究 / <input type="radio"/> 一般研究(個人研究) / <input type="radio"/> 一般研究(共同研究) / <input type="radio"/> 総合研究	注:該当する種目を○で囲んでください。
2	研究課題 腸管の抗原特異的免疫応答における孤立リンパ小節の役割	
3	研究組織 (共同研究・総合研究のみ該当します) ・研究代表者  ・研究分担者 (役割分担)	
4	学会発表等 (要旨集の抜き刷り、発表原稿のコピー等及び発表したことがわかるものを添付してください。)	
	発表者名	学会名
	発表テーマ	発表年月
	橋爪 智美 他	第 37 回日本免疫学会総会・学術集会
	Lymphostructure of Peyer's patch is important for induction of intestinal IgA immunity against recombinant <i>Salmonella</i>	2007 年 11 月
	橋爪 智美 他	第 38 回日本免疫学会総会・学術集会
	Critical role of Peyer's patch CD11b+ dendritic cells for the induction of antigen-specific mucosal IgA antinody responses to recombinant <i>Salmonella</i>	2008 年 12 月
5	著書・雑誌論文 (著書・雑誌・抜き刷り等を添付してください。コピーの場合は掲載されたことが客観的にわかるものを添付してください。)	
	著者・執筆者	著書名・雑誌名／論文名
	巻・号	年月
	出版社・発行所	
	Tomomi Hashizume et al.	Infection and Immunity / Peyer's Patches Are Required for Intestinal Immunoglobulin A Responses to <i>Salmonella</i> spp.
	76・3	2008年3月
		American Society for Microbiology.

※ホームページ等での公開の  可 ・  否 どちらかを○で囲んでください。否の場合は、理由書を添付して下さい。

6 その他の発表 新聞掲載			
発表／掲載者名	新聞名 (朝刊・夕刊)	掲載年月日	
その他 (ビデオ, CD, シナリオ, 写真, 舞台等)			
氏名	提出物	内容	数量

7 その他の成果 (下記のような成果があれば記入してください。)

(知的財産権の取得)

(外部資金の獲得)

(他の研究への発展)

(その他)

* 課題番号	奨 07-043
--------	----------

注：課題番号を記入してください。

平成 19 年度 学術研究助成金成果物報告書

平成 21 年 3 月 5 日

日 本 大 学 総 長 殿

氏 名 太 田 (横 田) ル ミ



所属・資格 松戸歯学部・助手

下記のとおり提出いたします。

1 種 目	<input checked="" type="radio"/> 奨励研究 / <input type="radio"/> 一般研究(個人研究) / <input type="radio"/> 一般研究(共同研究) / <input type="radio"/> 総合研究			注:該当する種目を○で囲んでください。																														
2 研究課題	歯の発生過程に於ける未分化細胞 (幹細胞) の局在																																	
3 研究組織 (共同研究・総合研究のみ該当します)	<ul style="list-style-type: none"> <li>研究代表者</li> <li>研究分担者 (役割分担)</li> </ul>																																	
4 学会発表等 (要旨集の抜き刷り, 発表原稿のコピー等及び発表したことがわかるものを添付してください。)	<table border="1"> <thead> <tr> <th>発表者名</th> <th>学会名</th> <th>発表テーマ</th> <th>発表年月</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>小澤幸重, 鈴木久仁博, 山本 仁, 横田ルミ, 新美寿英, 阿部達彦, 山下靖雄, 大島勇人</td> <td>第 113 回日本解剖学会総会・全国学術大会</td> <td>歯根の形態と分化</td> <td>2008 年 3 月</td> </tr> <tr> <td>Kozawa, Y., Yokota, R., Niimi, T., Oshima, H., H-S Jung</td> <td>14th International Symposium on Dental Morphology</td> <td>Morphogenesis of mammalian tooth</td> <td>2008 年 8 月</td> </tr> <tr> <td>太田 (横田) ルミ, 新美寿英, 山本 仁, 鈴木久仁博, 寒河江登志朗, 小澤幸重</td> <td>第 50 回歯科基礎医学学会学術大会・総会</td> <td>エナメル芽細胞の細動 Torsional Motion</td> <td>2008 年 9 月</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				発表者名	学会名	発表テーマ	発表年月	小澤幸重, 鈴木久仁博, 山本 仁, 横田ルミ, 新美寿英, 阿部達彦, 山下靖雄, 大島勇人	第 113 回日本解剖学会総会・全国学術大会	歯根の形態と分化	2008 年 3 月	Kozawa, Y., Yokota, R., Niimi, T., Oshima, H., H-S Jung	14th International Symposium on Dental Morphology	Morphogenesis of mammalian tooth	2008 年 8 月	太田 (横田) ルミ, 新美寿英, 山本 仁, 鈴木久仁博, 寒河江登志朗, 小澤幸重	第 50 回歯科基礎医学学会学術大会・総会	エナメル芽細胞の細動 Torsional Motion	2008 年 9 月														
発表者名	学会名	発表テーマ	発表年月																															
小澤幸重, 鈴木久仁博, 山本 仁, 横田ルミ, 新美寿英, 阿部達彦, 山下靖雄, 大島勇人	第 113 回日本解剖学会総会・全国学術大会	歯根の形態と分化	2008 年 3 月																															
Kozawa, Y., Yokota, R., Niimi, T., Oshima, H., H-S Jung	14th International Symposium on Dental Morphology	Morphogenesis of mammalian tooth	2008 年 8 月																															
太田 (横田) ルミ, 新美寿英, 山本 仁, 鈴木久仁博, 寒河江登志朗, 小澤幸重	第 50 回歯科基礎医学学会学術大会・総会	エナメル芽細胞の細動 Torsional Motion	2008 年 9 月																															
5 著書・雑誌論文 (著書・雑誌・抜き刷り等を添付してください。コピーの場合は掲載されたことが客観的にわかるものを添付してください。)	<table border="1"> <thead> <tr> <th>著者・執筆者</th> <th>著書名・雑誌名/論文名</th> <th>巻・号</th> <th>年月</th> <th>出版社・発行所</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>太田 (横田) ルミ 他</td> <td>日大口腔科学/エナメル小柱の捻れや彎曲を生み出すエナメル芽細胞の免疫組織化学的検討</td> <td>34・3</td> <td>2008 年 12 月</td> <td>日本大学口腔科学会</td> </tr> <tr> <td>太田 (横田) ルミ 他</td> <td>日大口腔科学/咬頭頂付近を形成するエナメル芽細胞の免疫組織科学的研究</td> <td>34・3</td> <td>2008 年 12 月</td> <td>日本大学口腔科学会</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				著者・執筆者	著書名・雑誌名/論文名	巻・号	年月	出版社・発行所	太田 (横田) ルミ 他	日大口腔科学/エナメル小柱の捻れや彎曲を生み出すエナメル芽細胞の免疫組織化学的検討	34・3	2008 年 12 月	日本大学口腔科学会	太田 (横田) ルミ 他	日大口腔科学/咬頭頂付近を形成するエナメル芽細胞の免疫組織科学的研究	34・3	2008 年 12 月	日本大学口腔科学会															
著者・執筆者	著書名・雑誌名/論文名	巻・号	年月	出版社・発行所																														
太田 (横田) ルミ 他	日大口腔科学/エナメル小柱の捻れや彎曲を生み出すエナメル芽細胞の免疫組織化学的検討	34・3	2008 年 12 月	日本大学口腔科学会																														
太田 (横田) ルミ 他	日大口腔科学/咬頭頂付近を形成するエナメル芽細胞の免疫組織科学的研究	34・3	2008 年 12 月	日本大学口腔科学会																														

※ホームページ等での公開の  可 /  否 いずれかを○で囲んでください。否の場合は, 理由書を添付して下さい。

6 その他の発表 新聞掲載			
発表／掲載者名	新聞名 (朝刊・夕刊)	掲載年月日	
その他 (ビデオ, CD, シナリオ, 写真, 舞台等)			
氏名	提出物	内容	数量
7 その他の成果 (下記のような成果があれば記入してください。)			
(知的財産権の取得)			
(外部資金の獲得)			
(他の研究への発展)			
(その他)			



注：課題番号を記入してください。

## 平成19年度 学術研究助成金成果物報告書

平成 20 年 4 月 23 日

日 本 大 学 総 長 殿

氏 名 中島(藤田) 光



所属・資格 松戸歯学部・助手

下記のとおり提出いたします。

1 種目	奨励研究/一般研究(個人)/一般研究(共同)/総合研究			注：該当する種目を○で囲んでください。
2 研究課題	ワンボトル・ワンステップボンディング材の加水分解安定性			
3 研究組織 (共同研究・総合研究のみ該当します)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・研究代表者</li>   <li>・研究分担者 (役割分担)</li> </ul>			
4 学会発表等 (要旨集の抜き刷り、発表原稿のコピー等及び発表したことがわかるものを添付してください。)				
発表者名	学会名	発表テーマ	発表年月	
藤田(中島)光	日本歯科保存学会	トライエスボンドの歯質処理効果	2007.11.15	
5 著書・雑誌論文 (著書・雑誌・抜き刷り等を添付してください。コピーの場合は掲載されたことが客観的にわかるものを添付してください。)				
著者・執筆者	著書名・雑誌名/論文名	巻・号	年月	出版社・発行所

※ホームページ等での公開の(◎・否) いずれかを○で囲んでください。否の場合は、理由書を添付して下さい。

6 その他の発表 新聞掲載			
発表／掲載者名	新聞名 (朝刊・夕刊)	掲載年月日	
その他 (ビデオ, CD, シナリオ, 写真, 舞台等)			
氏名	提出物	内容	数量
7 その他の成果 (下記のような成果があれば記入してください。)			
(知的財産権の取得)			
(外部資金の獲得)			
(他の研究への発展)			
(その他)			

* 課題番号	奨 07-046
--------	----------

注：課題番号を記入してください。

平成 19 年度 学術研究助成金成果物報告書

平成 21 年 3 月 10 日

日 本 大 学 総 長 殿

氏 名 續橋 治



所属・資格 松戸歯学部・専任講師

下記のとおり提出いたします。

1 種目	<input checked="" type="radio"/> 奨励研究 / <input type="radio"/> 一般研究(個人研究) / <input type="radio"/> 一般研究(共同研究) / <input type="radio"/> 総合研究			注：該当する種目を○で囲んでください。
2 研究課題	<i>A. actinomycetemcomitans</i> 改良型選択培地の開発			
3 研究組織 (共同研究・総合研究のみ該当します)	・研究代表者  ・研究分担者 (役割分担)			
4 学会発表等 (要旨集の抜き刷り、発表原稿のコピー等及び発表したことがわかるものを添付してください。)				
発表者名	学会名	発表テーマ	発表年月	
O. tsuzukibashi 他	IADR 2008	A NEW SELECTIVE MEDIUM FOR AGGREGATIBACTER ACTINOMYCETEMCOMITANS FROM SALIVA SAMPLE	2008. 7	
續橋 治 他	第 50 回 歯科基礎医学学会・学術大会・総会	唾液検体を用いた <i>A. actinomycetemcomitans</i> の選択培地	2008. 9	
5 著書・雑誌論文 (著書・雑誌・抜き刷り等を添付してください。コピーの場合は掲載されたことが客観的にわかるものを添付してください。)				
著者・執筆者	著書名・雑誌名／論文名	巻・号	年月	出版社・発行所

※ホームページ等での公開の  是  否 いずれかを○で囲んでください。否の場合は、理由書を添付して下さい。

6 その他の発表 新聞掲載			
発表／掲載者名	新聞名 (朝刊・夕刊)	掲載年月日	
その他 (ビデオ, CD, シナリオ, 写真, 舞台等)			
氏名	提出物	内容	数量
7 その他の成果 (下記のような成果があれば記入してください。)			
<p>(知的財産権の取得) 特になし</p> <p>(外部資金の獲得) 特になし</p> <p>(他の研究への発展)  <i>Aggregatibacter actinomycetemcomitans (A.a)</i>分離のための選択培地は、既存の選択培地と比較して同等の <i>A.a</i> 標準菌の回収率と臨床検体において高い選択性が認められた。今後、この選択培地を用いることにより、<i>A.a</i> 分離株の性状解析、および臨床検体による血清型の分布の解析の研究に発展させたいと思っている。</p> <p>(その他) 特になし</p>			

* 課題番号	奨 07-047
--------	----------

注：課題番号を記入してください。

平成 19 年度 学術研究助成金成果物報告書

平成 21 年 3 月 19 日

日 本 大 学 総 長 殿

氏 名 齋 藤 (森川) 美 雪



所属・資格 松戸歯学部・助手

下記のとおり提出いたします。

1 種 目	<input checked="" type="radio"/> 奨励研究 / <input type="radio"/> 一般研究(個人研究) / <input type="radio"/> 一般研究(共同研究) / <input type="radio"/> 総合研究				注:該当する種目を○で囲んでください。
2 研究課題	生体内にみられる石灰化物の分析				
3 研究組織 (共同研究・総合研究のみ該当します)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・研究代表者</li> <li>・研究分担者 (役割分担)</li> </ul>				
4 学会発表等 (要旨集の抜き刷り, 発表原稿のコピー等及び発表したことがわかるものを添付してください。)					
発表者名	学会名	発表テーマ	発表年月		
小林真理江 他	日本大学口腔科学会学生会員ポスター発表会	口腔粘膜の剥離上皮細胞の比較検討について—採取方法、部位および固定法に関する細胞診への応用—	2007年11月		
森川美雪 他	第3回 バイオミネラリゼーションワークショップ	もうひとつの生体鉱物化作用：病理的石灰化	2008年12月		
5 著書・雑誌論文 (著書・雑誌・抜き刷り等を添付してください。コピーの場合は掲載されたことが客観的にわかるものを添付してください。)					
著者・執筆者	著書名・雑誌名／論文名	巻・号	年月	出版社・発行所	
森川美雪 他	日大口腔科学／固定液, 採取用具の違いによる口腔剥離細胞診への影響及びその有用性について	34 巻 2 号	2008 年 8 月	日本大学口腔科学会	

※ホームページ等での公開の  可・否) いずれかを○で囲んでください。否の場合は、理由書を添付して下さい。

6 その他の発表 新聞掲載			
発表／掲載者名	新聞名 (朝刊・夕刊)	掲載年月日	
その他 (ビデオ, CD, シナリオ, 写真, 舞台等)			
氏名	提出物	内容	数量
7 その他の成果 (下記のような成果があれば記入してください。)			
(知的財産権の取得)			
(外部資金の獲得)			
(他の研究への発展)			
(その他)			

* 課題番号	奨 07-048
--------	----------

注：課題番号を記入してください。

## 平成 19 年度 学術研究助成金成果物報告書

平成 21 年 5 月 19 日

日 本 大 学 総 長 殿

氏 名 \_\_\_\_\_ 島山 吉則 \_\_\_\_\_



所属・資格 \_\_\_\_\_ 生物資源科学部・助手 \_\_\_\_\_

下記のとおり提出いたします。

1	種 目 <input checked="" type="checkbox"/> 奨励研究 / <input type="checkbox"/> 一般研究(個人研究) / <input type="checkbox"/> 一般研究(共同研究) / <input type="checkbox"/> 総合研究	注: 該当する種目を○で囲んでください。
2	研究課題 新規手法を用いた昆虫寄生性微胞子虫の系統解析	
3	研究組織 (共同研究・総合研究のみ該当します) ・ 研究代表者  ・ 研究分担者 (役割分担)	
4	学会発表等 (要旨集の抜き刷り, 発表原稿のコピー等及び発表したことがわかるものを添付してください。)	
	発表者名	学会名
	発表テーマ	発表年月
	島山吉則・岩野秀俊	平成 20 年度蚕糸・昆虫機能利用学術講演会
	ホストゲノム時代における微胞子虫系統の分類	2008 年 3 月
5	著書・雑誌論文 (著書・雑誌・抜き刷り等を添付してください。コピーの場合は掲載されたことが客観的にわかるものを添付してください。)	
	著者・執筆者	著書名・雑誌名/論文名
	巻・号	年月
	出版社・発行所	
	Hatakeyama, Y., Hamano, K. and Iwano, H.	J. INSEC. BIOTECH. SERICOL. / An Ultimate Method for Detection of Infected Pathogenic Microorganism from Silkworm using HDGP.
	77. 1	2008 年 2 月
	日本蚕糸学会	
	Hatakeyama, Y., Sato, Y., Murata, K., Yukawa, M. and Iwano, H.	J. INSEC. BIOTECH. SERICOL. / Search for and detection of specific DNA fragments in high- and low-virulent strains of <i>Nosema bombycis</i> (Microsporida : Nosematidae) .
	78. 1	2009 年 2 月
	日本蚕糸学会	

※ホームページ等での公開の (  可・否 ) いずれかを○で囲んでください。否の場合は, 理由書を添付して下さい。

6 その他の発表 新聞掲載			
発表/掲載者名	新聞名 (朝刊・夕刊)	掲載年月日	
その他 (ビデオ, CD, シナリオ, 写真, 舞台等)			
氏名	提出物	内容	数量
7 その他の成果 (下記のような成果があれば記入してください。)			
(知的財産権の取得)			
(外部資金の獲得)			
(他の研究への発展)			
(その他)			
第44回日本蚕糸学会蚕糸学進歩賞(技術賞)受賞			



* 課題番号	奨 07-049
--------	----------

注：課題番号を記入してください。

平成19年度 学術研究助成金成果物報告書

平成21年 4月 9日

日 本 大 学 総 長 殿

氏 名 佐藤 喜和



所属・資格 生物資源科学部・専任講師

下記のとおり提出いたします。

1 種目	<input checked="" type="radio"/> 奨励研究 / <input type="radio"/> 一般研究(個人研究) / <input type="radio"/> 一般研究(共同研究) / <input type="radio"/> 総合研究			注: 該当する種目を○で囲んでください。																																								
2 研究課題	広葉樹液果・核果類の種子分散者としてのヒグマの役割																																											
3 研究組織 (共同研究・総合研究のみ該当します)	・研究代表者  ・研究分担者 (役割分担)																																											
4 学会発表等 (要旨集の抜き刷り, 発表原稿のコピー等及び発表したことがわかるものを添付してください。)	<table border="1"> <thead> <tr> <th>発表者名</th> <th>学会名</th> <th>発表テーマ</th> <th>発表年月</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>大貫麻衣子・今井桂・小林喬子・佐藤喜和</td> <td>日本哺乳類学会</td> <td>北海道のヒグマが採食する果実類</td> <td>平成20年9月</td> </tr> <tr> <td>佐藤喜和</td> <td>日本大学生物資源科学部学術講演会</td> <td>広葉樹液果・核果類の種子分散者としてのヒグマの役割</td> <td>平成20年11月</td> </tr> <tr> <td> </td> <td> </td> <td> </td> <td> </td> </tr> <tr> <td> </td> <td> </td> <td> </td> <td> </td> </tr> <tr> <td> </td> <td> </td> <td> </td> <td> </td> </tr> <tr> <td> </td> <td> </td> <td> </td> <td> </td> </tr> </tbody> </table>				発表者名	学会名	発表テーマ	発表年月	大貫麻衣子・今井桂・小林喬子・佐藤喜和	日本哺乳類学会	北海道のヒグマが採食する果実類	平成20年9月	佐藤喜和	日本大学生物資源科学部学術講演会	広葉樹液果・核果類の種子分散者としてのヒグマの役割	平成20年11月																												
発表者名	学会名	発表テーマ	発表年月																																									
大貫麻衣子・今井桂・小林喬子・佐藤喜和	日本哺乳類学会	北海道のヒグマが採食する果実類	平成20年9月																																									
佐藤喜和	日本大学生物資源科学部学術講演会	広葉樹液果・核果類の種子分散者としてのヒグマの役割	平成20年11月																																									
5 著書・雑誌論文 (著書・雑誌・抜き刷り等を添付してください。コピーの場合は掲載されたことが客観的にわかるものを添付してください。)	<table border="1"> <thead> <tr> <th>著者・執筆者</th> <th>著書名・雑誌名/論文名</th> <th>巻・号</th> <th>年月</th> <th>出版社・発行所</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td> </td> <td> </td> <td> </td> <td> </td> <td> </td> </tr> <tr> <td> </td> <td> </td> <td> </td> <td> </td> <td> </td> </tr> <tr> <td> </td> <td> </td> <td> </td> <td> </td> <td> </td> </tr> <tr> <td> </td> <td> </td> <td> </td> <td> </td> <td> </td> </tr> <tr> <td> </td> <td> </td> <td> </td> <td> </td> <td> </td> </tr> <tr> <td> </td> <td> </td> <td> </td> <td> </td> <td> </td> </tr> <tr> <td> </td> <td> </td> <td> </td> <td> </td> <td> </td> </tr> </tbody> </table>				著者・執筆者	著書名・雑誌名/論文名	巻・号	年月	出版社・発行所																																			
著者・執筆者	著書名・雑誌名/論文名	巻・号	年月	出版社・発行所																																								

※ホームページ等での公開の  (可) /  (否) いずれかを○で囲んでください。否の場合は, 理由書を添付して下さい。

6 その他の発表 新聞掲載			
発表／掲載者名	新聞名 (朝刊・夕刊)	掲載年月日	
その他 (ビデオ, CD, シナリオ, 写真, 舞台等)			
氏名	提出物	内容	数量
7 その他の成果 (下記のような成果があれば記入してください。)			
<p>(知的財産権の取得)</p>			
<p>(外部資金の獲得)</p>			
<p>(他の研究への発展)</p> <p>本研究の実績をもとに、引き続き、ヒグマの種子散布者としての役割を明らかにするための採食された種子の破壊率、発芽率などの研究を継続中である。</p>			
<p>(その他)</p>			

* 課題番号	奨 07-050
--------	----------

注：課題番号を記入してください。

## 平成19年度 学術研究助成金成果物報告書

平成21年4月30日

日 本 大 学 総 長 殿

氏 名 藤 沢 直 樹



所属・資格 生物資源科学部・専任講師

下記のとおり提出いたします。

1	種 目 <input checked="" type="checkbox"/> 奨励研究 / <input type="checkbox"/> 一般研究(個人研究) / <input type="checkbox"/> 一般研究(共同研究) / <input type="checkbox"/> 総合研究	注：該当する種目を○で囲んでください。
2	研究課題 農山村における自然災害被災地域の立地・土地利用特性に関する基礎的研究	
3	研究組織（共同研究・総合研究のみ該当します） ・研究代表者  ・研究分担者（役割分担）	
4	学会発表等（要旨集の抜き刷り、発表原稿のコピー等及び発表したことがわかるものを添付してください。）	
	発表者名	学会名
	小林智哉・藤沢直樹・糸長浩司	2007年度日本建築学会関東支部研究発表会
	藤沢直樹・糸長浩司	2008年度日本建築学会関東支部研究発表会
5	著書・雑誌論文（著書・雑誌・抜き刷り等を添付してください。コピーの場合は掲載されたことが客観的にわかるものを添付してください。）	
	著者・執筆者	著書名・雑誌名／論文名
		巻・号
		年月
		出版社・発行所

※ホームページ等での公開の  否  いずれかを○で囲んでください。否の場合は、理由書を添付して下さい。

6 その他の発表 新聞掲載			
発表／掲載者名	新聞名 (朝刊・夕刊)	掲載年月日	
その他 (ビデオ, CD, シナリオ, 写真, 舞台等)			
氏名	提出物	内容	数量
7 その他の成果 (下記のような成果があれば記入してください。)			
(知的財産権の取得)			
(外部資金の獲得)			
(他の研究への発展)			
(その他)			

【別紙様式 9】

* 課題番号	奨 07-051
--------	----------

注：課題番号を記入してください。

## 平成19年度 学術研究助成金成果物報告書

平成 21 年 4 月 28 日

日 本 大 学 総 長 殿

氏 名 鈴木 哲也



所属・資格 生物資源科学部・専任講師

下記のとおり提出いたします。

1 種目	奨励研究 / 一般研究(個人研究) / 一般研究(共同研究) / 総合研究			注：該当する種目を○で囲んでください。																														
2 研究課題	地球統計学を援用した農業水利構造物の空間的損傷度分布推定法の開発																																	
3 研究組織 (共同研究・総合研究のみ該当します)	<ul style="list-style-type: none"> <li>研究代表者</li> <li>研究分担者 (役割分担)</li> </ul>																																	
4 学会発表等 (要旨集の抜き刷り, 発表原稿のコピー等及び発表したことがわかるものを添付してください。)	<table border="1"> <thead> <tr> <th>発表者名</th> <th>学会名</th> <th>発表テーマ</th> <th>発表年月</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>山本大祐・磯田寛利・鈴木哲也・青木正雄</td> <td>第 63 回セメント技術大会</td> <td>セミバリオグラムを用いた表面被覆工を施したコンクリートの熱特性評価</td> <td>2009.05</td> </tr> <tr> <td>山本大祐・鈴木哲也・青木正雄・青木論司・磯田寛利</td> <td>平成 20 年度農業農村工学会関東支部大会講演会</td> <td>損傷コンクリートの赤外線画像特性に基づく補修効果の検証に関する研究</td> <td>2008.10</td> </tr> <tr> <td>山本大祐・鈴木哲也・青木正雄・仲里義光</td> <td>平成 20 年度農業農村工学会大会講演会</td> <td>熱画像の空間分布特性を用いたコンクリート水路壁面の損傷度評価</td> <td>2008.08</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				発表者名	学会名	発表テーマ	発表年月	山本大祐・磯田寛利・鈴木哲也・青木正雄	第 63 回セメント技術大会	セミバリオグラムを用いた表面被覆工を施したコンクリートの熱特性評価	2009.05	山本大祐・鈴木哲也・青木正雄・青木論司・磯田寛利	平成 20 年度農業農村工学会関東支部大会講演会	損傷コンクリートの赤外線画像特性に基づく補修効果の検証に関する研究	2008.10	山本大祐・鈴木哲也・青木正雄・仲里義光	平成 20 年度農業農村工学会大会講演会	熱画像の空間分布特性を用いたコンクリート水路壁面の損傷度評価	2008.08														
発表者名	学会名	発表テーマ	発表年月																															
山本大祐・磯田寛利・鈴木哲也・青木正雄	第 63 回セメント技術大会	セミバリオグラムを用いた表面被覆工を施したコンクリートの熱特性評価	2009.05																															
山本大祐・鈴木哲也・青木正雄・青木論司・磯田寛利	平成 20 年度農業農村工学会関東支部大会講演会	損傷コンクリートの赤外線画像特性に基づく補修効果の検証に関する研究	2008.10																															
山本大祐・鈴木哲也・青木正雄・仲里義光	平成 20 年度農業農村工学会大会講演会	熱画像の空間分布特性を用いたコンクリート水路壁面の損傷度評価	2008.08																															
5 著書・雑誌論文 (著書・雑誌・抜き刷り等を添付してください。コピーの場合は掲載されたことが客観的にわかるものを添付してください。)	<table border="1"> <thead> <tr> <th>著者・執筆者</th> <th>著書名・雑誌名/論文名</th> <th>巻・号</th> <th>年月</th> <th>出版社・発行所</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>T. Suzuki, M. Ohtsu and M. Aoki</td> <td>ConMat' 09/Evaluation of Spatial Damage Distribution in Structural Concrete by Semi-Variogram Analysis</td> <td>CD-R</td> <td>2009.7</td> <td>土木学会</td> </tr> <tr> <td>M. Ohtsu, Y. Tomoda and T. Suzuki</td> <td>Acoustic Emission and Critical Phenomena From Structural Mechanics to Geophysics /AE analysis of Concrete for Corrosion, Damage and Cracking Mechanism</td> <td>-</td> <td>2008.7</td> <td>CRC Press</td> </tr> <tr> <td>鈴木哲也, 青木正雄, 大津政康</td> <td>コンクリート工学年次論文集/バリオグラムを用いた補修コンクリートの熱特性評価</td> <td>30-2</td> <td>2008.8</td> <td>コンクリート工学協会</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				著者・執筆者	著書名・雑誌名/論文名	巻・号	年月	出版社・発行所	T. Suzuki, M. Ohtsu and M. Aoki	ConMat' 09/Evaluation of Spatial Damage Distribution in Structural Concrete by Semi-Variogram Analysis	CD-R	2009.7	土木学会	M. Ohtsu, Y. Tomoda and T. Suzuki	Acoustic Emission and Critical Phenomena From Structural Mechanics to Geophysics /AE analysis of Concrete for Corrosion, Damage and Cracking Mechanism	-	2008.7	CRC Press	鈴木哲也, 青木正雄, 大津政康	コンクリート工学年次論文集/バリオグラムを用いた補修コンクリートの熱特性評価	30-2	2008.8	コンクリート工学協会										
著者・執筆者	著書名・雑誌名/論文名	巻・号	年月	出版社・発行所																														
T. Suzuki, M. Ohtsu and M. Aoki	ConMat' 09/Evaluation of Spatial Damage Distribution in Structural Concrete by Semi-Variogram Analysis	CD-R	2009.7	土木学会																														
M. Ohtsu, Y. Tomoda and T. Suzuki	Acoustic Emission and Critical Phenomena From Structural Mechanics to Geophysics /AE analysis of Concrete for Corrosion, Damage and Cracking Mechanism	-	2008.7	CRC Press																														
鈴木哲也, 青木正雄, 大津政康	コンクリート工学年次論文集/バリオグラムを用いた補修コンクリートの熱特性評価	30-2	2008.8	コンクリート工学協会																														

※ホームページ等での公開の (可・否) いずれかを○で囲んでください。否の場合は、理由書を添付して下さい。

6 その他の発表 新聞掲載			
発表/掲載者名	新聞名 (朝刊・夕刊)	掲載年月日	
その他 (ビデオ, CD, シナリオ, 写真, 舞台等)			
氏名	提出物	内容	数量
7 その他の成果 (下記のような成果があれば記入してください。)			
<p>(知的財産権の取得)</p>			
<p>(外部資金の獲得)</p> <p>本研究成果を踏まえて、平成 21 年度“<b>新たな農林水産政策を推進する実用技術開発事業</b>”(農林水産省)へ(独)農村工学研究所および東京大学とともに申請し、採択されている。日本大学は、非破壊損傷度評価技術の開発を担当し、本研究成果を基本とした技術開発を展開する予定である。具体的には、本年 12 月に北海道開発技術研究所の協力を得て、寒冷地域のコンクリート損傷の精密同定法の検討を行う。</p>			
<p>(他の研究への発展)</p> <p>本研究は、時空間統計解析手法を非破壊計測データに適用し、その処理アルゴリズムを構築するものである。このことから、本研究対象である社会基盤構造物の熱特性のみではなく、物性評価への拡張が可能である。現在、非破壊非接触による診断技術への展開を(独)農村工学研究所と(株)日本水工コンサルタントによる産官学連携による共同開発を進めている。</p>			
<p>(その他)</p> <p>本研究成果より 2008 年 8 月に(社)コンクリート工学協会より“<b>年次論文奨励賞</b>”を受賞した。受賞対象論文は、上記、“バリオグラムによる表面被覆工を施したコンクリートの熱特性評価”である。</p>			

* 課題番号	奨 07-052
--------	----------

注：課題番号を記入してください。

## 平成19年度 学術研究助成金成果物報告書

平成21年 4月27日

日 本 大 学 総 長 殿

氏 名           中 川 達 功          



所属・資格           生物資源科学部・専任講師          

下記のとおり提出いたします。

1	種 目 <input checked="" type="radio"/> 奨励研究 <input type="radio"/> 一般研究(個人研究) / <input type="radio"/> 一般研究(共同研究) / <input type="radio"/> 総合研究	注: 該当する種目を○で囲んでください。			
2	研究課題  海洋性硝化微生物の分布および培養に関する研究				
3	研究組織 (共同研究・総合研究のみ該当します) ・ 研究代表者  ・ 研究分担者 (役割分担)				
4	学会発表等 (要旨集の抜き刷り, 発表原稿のコピー等及び発表したことがわかるものを添付してください。)				
	発表者名	学会名	発表テーマ	発表年月	
	松谷直樹、安藤善史、 <u>中川達功</u> 、他	第24回日本微生物生態学会大会	アマモ群落底砂由来のアンモニア酸化培養系と現場底砂のアンモニア酸化性アーキアの群集構造比較	2008年11月	
	山根さつき、 <u>中川達功</u> 、植田育男、他	第24回日本微生物生態学会大会	逆転写 PCR 法による水族館ろ過槽内における海水性アンモニア酸化性アーキアのモニタリング	2008年11月	
	安藤善史、 <u>中川達功</u> 、高橋令二、他	第24回日本微生物生態学会大会	静岡県下田市田ノ浦湾のアマモ群落中底砂におけるアンモニア酸化性アーキアおよびバクテリアの季節的遷移とその硝化作用	2008年11月	
	<u>中川達功</u> 、古谷光章、高橋令二、他	日本農芸化学会2008年度大会	日本海奥尻沖深海におけるアンモニア酸化性アーキアの分布。	2008年3月	
	安藤善史、 <u>中川達功</u> 、高橋令二、他	日本農芸化学会2008年度大会	静岡県下田市田ノ浦湾のアマモ群落におけるアンモニア酸化性アーキアとバクテリアの群集構造変化	2008年3月	
	山根さつき、 <u>中川達功</u> 、植田育男、他	日本農芸化学会2008年度大会	逆転写 PCR 法による水族館海水ろ過槽内におけるアンモニア酸化性アーキアおよびバクテリアのモニタリング	2008年3月	
5	著書・雑誌論文 (著書・雑誌・抜き刷り等を添付してください。コピーの場合は掲載されたことが客観的にわかるものを添付してください。)				
	著者・執筆者	著書名・雑誌名/論文名	巻・号	年月	出版社・発行所
	Ando, Y., <u>T. Nakagawa</u> , R. Takahashi, K. Yoshihara, T. Tokuyama	Microbes and Environments / Seasonal changes in abundance of ammonia-oxidizing archaea and ammonia-oxidizing bacteria and their nitrification in sand of an eelgrass zone	24・1	2009年3月	日本微生物生態学会

※ホームページ等での公開の  (可)  (否) いずれかを○で囲んでください。否の場合は、理由書を添付して下さい。





注：課題番号を記入してください。

## 平成19年度 学術研究助成金成果物報告書

平成 21年 3月 26日

日本大学 総長 殿

氏 名 丸山 治彦

所属・資格 生物資源科学部・助手



下記のとおり提出いたします。

1 種目	<input checked="" type="radio"/> 奨励研究 / <input type="radio"/> 一般研究(個人研究) / <input type="radio"/> 一般研究(共同研究) / <input type="radio"/> 総合研究			注：該当する種目を○で囲んでください。																																			
2 研究課題	犬における播種性血管内凝固症候群の発現機序に関する研究																																						
3 研究組織 (共同研究・総合研究のみ該当します)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・研究代表者</li>   <li>・研究分担者 (役割分担)</li> </ul>																																						
4 学会発表等 (要旨集の抜き刷り、発表原稿のコピー等及び発表したことがわかるものを添付してください。)	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 25%;">発表者名</th> <th style="width: 25%;">学会名</th> <th style="width: 40%;">発表テーマ</th> <th style="width: 10%;">発表年月</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>丸山治彦、他3名</td> <td>第46回日本大学獣医学会</td> <td>リンパ腫罹患犬における血液凝固活性亢進と炎症の関連性</td> <td>平成20年6月</td> </tr> <tr> <td>以上</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> </tbody> </table>				発表者名	学会名	発表テーマ	発表年月	丸山治彦、他3名	第46回日本大学獣医学会	リンパ腫罹患犬における血液凝固活性亢進と炎症の関連性	平成20年6月	以上																										
発表者名	学会名	発表テーマ	発表年月																																				
丸山治彦、他3名	第46回日本大学獣医学会	リンパ腫罹患犬における血液凝固活性亢進と炎症の関連性	平成20年6月																																				
以上																																							
5 著書・雑誌論文 (著書・雑誌・抜き刷り等を添付してください。コピーの場合は掲載されたことが客観的にわかるものを添付してください。)	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 25%;">著者・執筆者</th> <th style="width: 35%;">著書名・雑誌名/論文名</th> <th style="width: 10%;">巻・号</th> <th style="width: 10%;">年月</th> <th style="width: 20%;">出版社・発行所</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>丸山治彦、他7名</td> <td>J. Vet. Med. Sci/Reticulated Platelet Levels in Whole Blood and Platelet-Rich plasma of Dogs with Various Platelet Counts Measured by Flow Cytometry</td> <td>71・2</td> <td>平成21年 2月</td> <td>日本獣医学会</td> </tr> <tr> <td>以上</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> </tbody> </table>				著者・執筆者	著書名・雑誌名/論文名	巻・号	年月	出版社・発行所	丸山治彦、他7名	J. Vet. Med. Sci/Reticulated Platelet Levels in Whole Blood and Platelet-Rich plasma of Dogs with Various Platelet Counts Measured by Flow Cytometry	71・2	平成21年 2月	日本獣医学会	以上																								
著者・執筆者	著書名・雑誌名/論文名	巻・号	年月	出版社・発行所																																			
丸山治彦、他7名	J. Vet. Med. Sci/Reticulated Platelet Levels in Whole Blood and Platelet-Rich plasma of Dogs with Various Platelet Counts Measured by Flow Cytometry	71・2	平成21年 2月	日本獣医学会																																			
以上																																							

※ホームページ等での公開の  可  否 いずれかを○で囲んでください。否の場合は、理由書を添付して下さい。

6 その他の発表 新聞掲載			
発表/掲載者名	新聞名 (朝刊・夕刊)	掲載年月日	
無し			
その他 (ビデオ, CD, シナリオ, 写真, 舞台等)			
氏名	提出物	内容	数量
無し			
7 その他の成果 (下記のような成果があれば記入してください。)			
(知的財産権の取得) 無し			
(外部資金の獲得) 無し			
(他の研究への発展) 無し			
(その他) 無し			



6 その他の発表 新聞掲載			
発表／掲載者名	新聞名 (朝刊・夕刊)	掲載年月日	
その他 (ビデオ, CD, シナリオ, 写真, 舞台等)			
氏名	提出物	内容	数量
7 その他の成果 (下記のような成果があれば記入してください。)			
(知的財産権の取得)			
(外部資金の獲得)			
(他の研究への発展)			
(その他)			

* 課題番号	奨07-055
--------	---------

注：課題番号を記入してください。

## 平成19年度 学術研究助成金成果物報告書

平成 21 年 4 月 20 日

日 本 大 学 総 長 殿

氏 名 橋 崎 要



所属・資格 薬学部・助教

下記のとおり提出いたします。

1	種 目	<input checked="" type="radio"/> 奨励研究 / 一般研究(個人研究) / 一般研究(共同研究) / 総合研究	注：該当する種目を○で囲んでください。
2	研究課題	界面活性剤からなる新規ゲル基剤の開発	
3	研究組織（共同研究・総合研究のみ該当します）	・研究代表者  ・研究分担者（役割分担）	
4	学会発表等	（要旨集の抜き刷り、発表原稿のコピー等及び発表したことがわかるものを添付してください。）	
	発表者名	学会名	発表テーマ
	橋崎要 他3名	日本薬学会第128年会	紐状ミセルからなるゲル基剤のレオロジー特性
	玉木奈緒, 橋崎要 他2名	日本薬学会第128年会	紐状ミセルからなるゲル基剤の製剤学的評価
5	著書・雑誌論文	（著書・雑誌・抜き刷り等を添付してください。コピーの場合は掲載されたことが客観的にわかるものを添付してください。）	
	著者・執筆者	著書名・雑誌名／論文名	巻・号
	橋崎要 他6名	Chemical & Pharmaceutical Bulletin / Rheological Behavior of Worm-like Micelles in a Mixed Nonionic Surfactant System of a Polyoxyethylene Phytosterol and Glycerin Fatty Acid Monoester	56(12)
	橋崎要 他2名	Journal of Oleo Science / Effects of Temperature on the Rheological Behavior of Worm-like Micelles in a Mixed Nonionic Surfactant System	58(5)

※ホームページ等での公開の  可  否 いずれかを○で囲んでください。否の場合は、理由書を添付して下さい。

6 その他の発表 新聞掲載			
発表／掲載者名	新聞名 (朝刊・夕刊)	掲載年月日	
その他 (ビデオ, CD, シナリオ, 写真, 舞台等)			
氏名	提出物	内容	数量
7 その他の成果 (下記のような成果があれば記入してください。)			
(知的財産権の取得)			
(外部資金の獲得)			
(他の研究への発展)			
(その他)			

【別紙様式 9】

*課題番号	奨 07-056
-------	----------

注：課題番号を記入してください。

平成19年度 学術研究助成金成果物報告書

平成 21 年 5 月 7 日

日 本 大 学 総 長 殿

氏 名 境 武 志



所属・資格 日本大学理工学部理工学研究科 上席研究員

下記のとおり提出いたします。

1 種目	<input checked="" type="radio"/> 奨励研究 / <input type="radio"/> 一般研究(個人研究) / <input type="radio"/> 一般研究(共同研究) / <input type="radio"/> 総合研究			注:該当する種目を○で囲んでください。	
2 研究課題	冷却系の安定化による自由電子レーザー及びパラメトリック X 線放射の高度化				
3 研究組織 (共同研究・総合研究のみ該当します)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・研究代表者</li> <li>・研究分担者 (役割分担)</li> </ul>				
4 学会発表等 (要旨集の抜き刷り、発表原稿のコピー等及び発表したことがわかるものを添付してください。)					
発表者名	学会名	発表テーマ	発表年月		
境 武志、他	(社)日本非破壊検査協会放射線分科会 第6回 放射線による非破壊評価シンポジウム	パラメトリック X 線による位相コントラストイメージング	2008年1月31日～2008年2月1日		
境 武志、他	第5回日本加速器学会年会・第33回リニアック技術研究会	Precise Control of Cooling Water System for Stabilization of Linac at LEBRA in Nihon University	2008年8月6日～2008年8月8日		
Takeshi Sakai,他	XXIV International Linear Accelerator Conference (LINAC2008)	PRECISE CONTROL OF COOLING WATER SYSTEM FOR STABILIZATION OF 125 MEV LINAC AT LEBRA	2008年9月28日～2008年10月4日		
5 著書・雑誌論文 (著書・雑誌・抜き刷り等を添付してください。コピーの場合は掲載されたことが客観的にわかるものを添付してください。)	著者・執筆者	著書名・雑誌名/論文名	巻・号	年月	出版社・発行所
境 武志		中規模加速器を用いたパラメトリック X 線による位相差イメージング	Vol. 57 No. 6	2008年6月	(社)日本非破壊検査協会

※ホームページ等での公開の (可) 否) いずれかを○で囲んでください。否の場合は、理由書を添付して下さい。

6 その他の発表 新聞掲載			
発表/掲載者名	新聞名 (朝刊・夕刊)	掲載年月日	
その他 (ビデオ, CD, シナリオ, 写真, 舞台等)			
氏名	提出物	内容	数量
7 その他の成果 (下記のような成果があれば記入してください。)			
(知的財産権の取得)			
(外部資金の獲得)			
(他の研究への発展)			
(その他)			